

# 淑徳大学 地域連携 センター

年報 Vol.6

2021, 2022年

## CONTENTS

### 巻頭言

地域連携・社会連携は「究愈々遠」  
…………… 淑徳大学地域連携センター長 矢尾板俊平

### 活動報告

- I. 活動報告
- 2021, 2022年度大学地域連携センター 事業報告
    - I. 大学地域連携センターの取組
    - II. 各キャンパスでの取組
    - III. 受託事業

### その他

- II. 2021, 2022年度 関連規程等

# 目次

## 巻頭言

地域連携・社会連携は「究愈々遠」 .....	淑徳大学地域連携センター長 矢尾板俊平	1
------------------------	---------------------	---

## I. 活動報告

2021, 2022年度大学地域連携センター 事業報告 .....		3
I. 事業概要		
II. 各キャンパスでの取組		
III. 受託事業		

## II. 2021, 2022年度 関連規程等

2021, 2022年度 淑徳大学地域連携センター員名簿、淑徳大学地域連携センター運営委員会名簿 .....		42
淑徳大学地域連携センター規程 .....		44
淑徳大学地域連携センター運営委員会規程 .....		46
淑徳大学地域連携センター 共同研究及び実践的な取り組みの実施に関する覚書 .....		47



## 巻頭言

## 地域連携・社会連携は「究愈々遠」

淑徳大学地域連携センター長 矢尾板 俊 平

「究愈々遠（究めて愈々遠し）」、福澤諭吉の言葉です。学問とは、究めれば究めるほど、その完成は遠く深いものであって、学問を究めるといことは、それほど難しいものであることを示す言葉です。だからこそ、学問とは「かく面白き」ものであるとも言えます。

そして、学問とは、実践の中に新たな「知」を求めることでもあり、そこに実学の意義があるように思います。大学の地域連携・社会連携とは、まさに大学が実践の中から、新たな「知」を探究する活動でもあり、大学が持つ「知」を地域社会に還元させる貢献活動であると言えます。その点では、大学と地域社会との関係は、継続的な互酬関係が構築されていくことが大切となります。言い換えれば、信頼、互酬性、ネットワークといった「社会関係資本（ソーシャルキャピタル）」が大学と地域社会との間に形成していくことを目指すことが求められます。

つまり、本来の地域連携・社会連携とは、地域で何か活動をしたということだけに留まるものではなく、そこから、地域社会とどのような関係性を作ることができたのかということまで考えていく必要があると言えます。

また、大学の地域連携・社会連携の評価は、単純にアウトプットの量（活動量）ではなく、そうした活動から得られた成果（アウトカム）や社会的影響（ソーシャルインパクト）で測っていくべきであると言えます。すなわち、それは、今後、大学自らが、その評価方法や評価指標を開発し、地域連携・社会連携の「質保証と質向上」を行っていくことも求められることでしょう。

コロナ禍の3年間は、大学の地域連携・社会連携にも大きな問いかけが行われた3年間でした。地域社会においては、これまで行われてきた盆踊りや地域のお祭り、多くの行事やイベントが中止になりました。このことは、地域社会の文化の継承にとっても大きなダメージとなります。高齢化が進む中で、次の世代に引き継ごうとしても、その機会が奪われていく。町内自治会の活動にも制限がかかるとすれば、地域のソーシャルキャピタルの低下、それによる地域力の衰退につながっていきます。そこに、私たち大学はどのように向き合うのか、そうした姿勢が問われたように思います。

コロナ前に比べれば、小規模かもしれませんが、地域のお祭りやイベントを開催すると、地域の子どもたちは喜んでくれて、たくさんの笑顔と出会うことができます。子どもたちにとって、地域のお祭りやイベントは、楽しく、かけがえのないものなのだとことを痛感します。「コロナ禍の中で、地域の幸せのために、自分たちができることは何か」、こうした疑問の自問自答の連続であったように思います。

地域連携・社会連携は、究めて愈々遠し。地域社会との連携を進めれば進むほど、深めれば深めるほど、その完成は、遙か遠いものであることに気がきます。

本号は、淑徳大学地域連携センター年報の最終号となります。これまで、淑徳大学地域連携センターの活動にご支援・ご協力を賜りました皆様に、心より御礼を申し上げます。今後も、地域連携・社会連携といった実践を通じた新たな「知」の発見と社会への還元を続けていきたいと考えておりますので、引き続きのご支援を賜りますよう、なにとぞ、よろしく願い申し上げます。

2023年12月



## 2021年度大学地域連携センター 事業報告

### I. 2021年度の事業概要

#### 1. 私立大学等改革総合支援事業の選定

2021年度は、2020年度に引き続き、私立大学等改革総合支援事業タイプ3（「地域社会への貢献」プラットフォーム型）に選定された。

私立大学等改革総合支援事業タイプ3（「地域社会への貢献」プラットフォーム型）は、ちば産学官連携プラットフォームとして申請し、共通設問の点数で、まずプラットフォーム単位で選定される。次に、各校の個別設問の点数で、個別の大学が選定されるという二段階での選定となる。

申請にあたっては、引き続き、本学が申請取りまとめ校となり、大学地域連携センターが申請取りまとめの担当部署として、プラットフォーム参画校と連携・協力し、申請作業を進めた。

2020年度の選定率は、58%（昨年度は68%）と、10%の低下であり、選定のハードルが高くなった。2020年度と比較すると、昨年度の申請数が193校であるのに対し、2021年度は175校と20校程度の減少となった。2018年度は、247校が申請しているため、私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献」（プラットフォーム型）に申請すること自体の難易度も高くなってきているとともに、選定校が「固定化」されてきている。私立大学等改革総合支援事業を通じた各校の高等教育改革の推進という視点で見れば、今後、実質的な活動内容がさらに求められるとともに、申請校の裾野を拡大すべく、大幅に申請得点を向上した申請校が選定されやすくなるような設問設定が行われる可能性がある。

#### 2. リカレント教育・履修証明プログラム事業

「履修証明制度」は、大学等の積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の方を対象とした、60時間以

上の一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書を交付できるという制度である。

2021年度も、千葉キャンパス授業開放講座対象科目の授業開放講座の取り組みと連携し、取り組みを進めた。

#### 淑徳大学履修証明プログラム 「利他共生社会と教養プログラム」

##### ◆履修証明認定条件

- ①各科目区分から1科目以上、計6科目を受講
- ②オリエンテーション（利他共生社会（「共生論」「仏教福祉論」）、千葉学等）
- ③現代社会の問題を考えるための教養を学ぶ 科目区分・開講科目（計20科目）
  - ・人間理解科目（5科目）  
「現代人の生活倫理」「人間の心理と行動」「健康科学と身体運動」「心と身体の健康管理」「チームワークとリーダーシップ」
  - ・文化理解科目（5科目）  
「日本社会と歴史文化」「アジアの文化と暮らし」「文学作品と文学表現」「伝統文化と民俗世界」「多文化と異文化理解」
  - ・社会理解科目（5科目）  
「経済構造と経済政策」「法律社会と人権問題」「政治社会と行政問題」「福祉政策と社会保障」「社会貢献と地域活動」
  - ・国際理解科目（5科目）  
「宗教社会と民族文化」「国際関係と外交課題」「世界動向と国際貢献」「環境保護と野外活動」「生命科学と生命倫理」
- ④現代社会の問題を探究するための基礎的な知識を深める開講科目（計14科目）
  - ・心理学を探究する（4科目）  
「心理学概論」「組織心理学」「犯罪心理学」「高齢者心理学」
  - ・地域や社会の仕組みや政策課題を探究する（10科目）  
「現代社会論」「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「憲法」「民法（総則、物権法）」「債権法」「労働法」「公共政策論」「地域政策論」「地域振興論」
- ⑤上記科目に加え、淑徳大学の正課外活動（フィールドワーク）への参画も学修時間に加えることができるようにする。（例：地域連携・社会連携のプログラム、ボランティア活動、公開講座 等）

#### 3. 共同研究事業及び連携事業（受託事業）

共同研究事業及び連携事業（受託事業）については、千葉市から「千葉市こども若者市役所事業」、千

千葉県酒々井町から「酒々井町文化財基本調査「清光寺」史料調査業務委託」、一般社団法人全国スーパーマーケット協会から「地域密着型スーパーマーケットの新たな競争戦略に関する共同研究」と「スーパーマーケット Good Action Initiatives 事業」の4件の受託事業を実施した。

#### 4. 大学間連携事業

大学間の連携事業としては、ちば産学官連携プラットフォーム、京都文教大学、埼玉工業大学と本学の三大学における「地方と東京圏の大学生対流促進事業の共同実施に関する協定」に基づき、内閣府地方創生支援事業費補助金（地方と東京圏の大学生対流促進事業）「産官学民『ともいき学習』による持続可能な地域社会創造人材育成」（代表校：京都文教大学、協働校：埼玉工業大学・淑徳大学）事業に取り組んだ。

また、2020年度に連携協定を締結した大正大学と合同フィールドワーク（千葉市）を実施した。

## II. 各キャンパスでの取組

### 1. 千葉キャンパス

千葉キャンパスでは、2020年1月から日本国内で新型コロナウイルス感染症が拡散した影響により、昨年度まで取組んできた、学生が参加するサービスラーニングや多様なボランティア活動、地域の祭事の企画・運営への参画、授業開放講座の実施といった取組が中止あるいは大幅な縮小となった。

#### (1) 自治体との連携事業について

千葉キャンパスでは、千葉市と包括的な連携に関する協定を締結している。2019年度から本協定の締結により実施に向け検討する主な事業として挙げられている「パラスポーツ講座・交流会の開催など共生社会の実現に向けた取組」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

千葉キャンパスの学生が企画・運営している「第11回 長谷川良信記念・千葉市長杯争奪車いすバスケットボール全国選抜大会」は、新型コロナウイルス感染症の対策に頭を悩ませながらも3年ぶりに開催することができた。学祖の名を冠するこの大会は、2010年の

第3回大会から市長杯の冠をいただいている。例年、3月上旬に千葉市、（公財）千葉市スポーツ協会、淑徳大学の3者が共同で開催しているもので、第11回大会は選手や観客の安全を優先して、無観客での開催となったが大会2日目の準決勝と決勝の2試合をYouTube上にてライブ配信を行った。このライブ配信により、コロナ禍においても遠方から試合観戦をすることが可能となった（視聴者数4,600名）。

また、千葉市動物公園と連携して行っている取組として、「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」がある。ドリームナイト・アット・ザ・ズーは、障がいのある子どもたちとご家族を休園日の動物園に無料で招待し、気兼ねなく楽しいひとときを過ごしてもらうことを目的として、毎年各地で開催されている国際的な取組である。千葉市動物公園では2010年の開始以来、淑徳大学も運営に携わっており、千葉キャンパスで特別支援教育を学ぶ学生が実行委員として例年参画していたが、2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

#### (2) 締結している自治体以外との自治体との連携事業

千葉県立生涯高等学校との教育連携に関する協定に基づく活動がある。生涯高校と淑徳大学は、2015年度に総合福祉学部及びコミュニティ政策学部の学生・教職員が生涯高校の教職員と連携して「しゅくとも」を立ち上げ、継続的に活動を行ってきた。「しゅくとも」の活動は、月に2回程度、生涯高校へ赴き、学校生活などに不安のある生徒に向けてコミュニケーション練習会や相談会を行い、生徒たちの苦手意識を軽減させて高校の定着率・出席率向上を目指す活動を行ってきた。2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、本学の学生が高校への立ち入りができなくなった為、通常の活動を行うことができなくなったが、同校とは、計5回、「校内居場所カフェ」の取組を実施してきた。この取組は、高校生への福祉的支援を目標とした活動であり、高校生が「ちば産学官連携プラットフォーム」加盟の大学生とのコミュニケーションや交流機会を持つことで、高校生の第三の居場所を創るとともに、必要であれば、専門的な支援につなげていくことを目指す活動だ。このことをプログラムの「軸」として、高校生と大学生との「ナナメ」の関係での交流や「語り合い」を通じて、高校生が抱えている課題を共に話し、交流する機会を設けた。5回の開催で生

浜高校生が延べ926名、プラットフォーム加盟5大学より、大学生ボランティアが延べ92名の参加があった。

また、同じく千葉県内5地域に所在している「千葉県生涯大学校」と包括連携協定を締結しているが、2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響により休校となっている。

次に、「地方と東京圏の大学生対流促進事業の共同実施に関する協定」に基づく、「産官学民『ともいき学習』による持続可能な地域社会創造人材育成」事業がある。京都文教大学を代表校、埼玉工業大学と淑徳大学を協働校とする本事業では、単位互換制度を活用した国内留学プログラム（長期プログラム）や短期間の滞在で現地調査や地域活動に参加する短期プログラムを実施し、各大学が有する資源やネットワークを活用しながら、観光や地域づくりの分野で、学生の「学びの場」を広げていくとともに、学生や教職員が地域の課題解決に関わることで、地方創生の取組に貢献していきたい。2021年度は、短期プログラム「京丹後の魅力発見ツアー」（2022年2月21日～24日）が開催され、3名の学生が参加した。

2022年2月9日には、千葉県立松戸向陽高等学校と相互の包括的な連携に関し、協定を締結した。

主に「淑徳大学の専門性を生かした松戸向陽高校生徒へのキャリア教育並びに学習支援活動における連携」として、本学の社会福祉学科教員による出張講義を行うこととなった。具体的な取組については、松戸向陽高校と本学との間で協議会を設置し、定期的に意見交換を進めながら、事業を進めていくこととなる。

### （3）企業、経済団体、NPO団体等との産学官連携事業について

千葉キャンパスでは、サービスラーニングセンターが企画・運営を行っている独自プログラムにおいて、様々な企業・団体と連携事業を行っている。サービスラーニングセンターの独自プログラムとして、「千葉ロッテマリーンズ・淑徳大学スペシャルナイター」プログラム、「TDRと新しいホテルステイの旅」をテーマとした企画づくりプログラム、「千葉日報CHIBA University Press」プログラム、「ビジネスの現場で商品PRと流通を学ぶ」プログラム、「東京ガールズコレクションプログラム」を取り上げる。

「千葉ロッテマリーンズ・淑徳大学スペシャルナイ

ター」は、プロ野球球団である千葉ロッテマリーンズと連携し、試合観客数アップを目標とした様々な取組を行うプログラムだ。学内での第2回目のミーティングでは、株式会社千葉ロッテマリーンズ法人営業部の山本繁氏にご講演いただいた。今年度は学生立案企画として、「ストラックアウト」「バッティング」「ポスター展示」の実施を計画していたが、実施時期に千葉県において緊急事態宣言が発令されたため、「ポスター展示」のみを8月17日に実施した。この「ポスター掲示」は、ファンの中で非常に人気が高く、足を止めて写真を撮っているファンも多く見られた。また、この日はコミュニティ政策学科4年生による始球式も行われた。

「TDRと新しいホテルステイの旅」はTDRを訪問するカスタマー向けにホテルステイを楽しめる企画を作ることを課題として実施した。東急ベイホテルマーケティング支配人である三橋徹氏を外部講師に迎え、スチューデントアシスタント2名が加わって実施された。2021年度は、コミュニティ政策学部・社会福祉学部の学生に加えて「ともいきキャンパス事業」の一環として京都文教大学の学生も参加するハイブリッド形式（対面とオンライン）でのプログラムとなった。

9月6日（月）にはホテル研修（場所：東京ベイ東急ホテル）が実施された。京都文教大学の学生を含め（Zoomによる遠隔参加）、14名の学生が参加した。新型コロナウイルス感染症に伴う感染対策や新しい生活様式を取り入れた最終発表会は、12月4日（土）京都文教大学から参加の3名も実際にホテルに訪れ、本学参加者との交流の機会があった。全6回、約半年にわたるプログラムの中で学んだ知識や自分のアイデアをブラッシュアップして、各自がパワーポイントで企画書を作成し、発表に臨んだ。自分以外の参加者が考えた企画・アイデアに触れることで、新たな発見があったり、自分の課題を見つけたりすることができ、有意義かつ最終回にふさわしい発表会となった。

「千葉日報CHIBA University Press」は、千葉日報社主催の社会貢献活動の一環として実施されており、今年度は、江戸川大学、敬愛大学、淑徳大学、聖徳大学、千葉商科大学、帝京平成大学、東京経営短期大学の7校が参加した。参加学生は千葉日報社の山田亮氏（編集局次長・報道センター長兼報道部長）・小泉勇登氏（クロスメディア局）らを講師として迎え、コロナ禍のためオンライン記者研修を実施し、2021年10月22

日、学生の取材記事が千葉日報に掲載された。この取組は、「有観客で東京五輪が行われるだろうか、そのときには一宮町にたくさんの観客で溢れるだろうか、その様子を取材できるだろうか」といった期待から一転して、無観客となり、それでも一宮町の魅力を探りたいとの思いから学生が作りあげた記事だった。

「ビジネスの現場で商品PRと流通を学ぶ」プログラムは、キリンビバレッジ株式会社の協力のもと、「午後の紅茶」の商品PR戦略を考えるもので、千葉県食料品スーパーである株式会社せんだうの協力により、実店舗に学生の製作した販売用POPが掲出された。

東京ガールズコレクションプログラムは、同イベントの企画・制作会社である株式会社WTokyoと連携して実施されたプログラムで、大学での事前学習を経て、TGCの現場スタッフを体験し、キャリア形成につながる実学を身につけることを目的とするインターンシップとして実施した。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年7月27日にTGC Teen2021 Summerが無観客（オンライン配信）で開催され学生4名が参加した。

9月4日にはTGC 2021 Autumn/Winterが開催され、総合福祉学部、コミュニティ政策学部、看護栄養学部の合計20名がインターンに参加した。さらには2022年3月21日にTGC 2022 Spring/Summerが開催され16名の学生が参加して、運営サポート、フィッター、広報アシスタントなどの業務に分かれ、日本で最大規模のファッションイベントを支える裏方として、インターンシップを経験した。

（文責：松崎滋）

## 2. 千葉第二キャンパス

千葉第二キャンパスでは、2021年度で9年目となったボランティア講座における活動が地域連携・社会連携の中核となっている。これは、看護栄養学部の地域連携委員会と松ケ丘中学校地区の諸団体や住民が連携し、学生が地域でのボランティア活動を通して、共生の理念を具現化し、将来、ボランティア活動に自ら参画・企画する能力を培うことを目的としている事業である。

2021年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行により、授業だけでなく、ボランティア

活動などすべての課外活動が制限を余儀なくされた。

このため、ボランティア講座は、遠隔会議システム（Zoom）を用いた講義（オンデマンド動画対応も含む）を行うとともに、学生との連絡、課題提出、教材提示等を目的として、学習支援システム（Google Classroom）を用いて、ほぼすべてオンライン上で以下の通り実施した。

### ・第1回ボランティア講座

日時：2021年9月11日（土）

内容：1. ボランティアとは何かを知る

2. 松ケ丘地域で求められているボランティアについて知る

講師：あんしんケアセンター松ケ丘 生活支援コーディネーター北田圭子氏

### ・第2回ボランティア講座

日時：2021年12月11日（土）

内容：「コミュニケーションやクリエイションのスキルに関する学修を通じて、対象者に応じた円滑なコミュニケーションの手法について理解する」

講師：教育学部こども教育学科 藤田佳子教授、パネリアタークラブPITAPETA

2020年度は、コロナ禍の影響を受け、オンライン以外の活動をほとんど実施できなかったが、2021年度はコロナ禍の中でありながら、「松ケ丘中学校地区育成行事」「松ケ丘中学校地区育成行事子どもまつり」「子ども食堂」などを実施した。

教員の地域連携活動は、以下の通りである。

### ・淑徳オレンジカフェ（認知症カフェ）

9回実施（例年12回程度実施）

### ・松ケ丘中学校区「子ども食堂」

テイクアウト弁当作成のみ（例年6回程度実施）

### ・松ケ丘ふるさと祭り、こども110番協力家庭の訪問

2021年7月11日（日）学生5名が参加して実施

### ・松ケ丘地区との連携の健康教育・栄養講話

14回実施（例年18回程度実施）

また、2020年度に引き続き、8月3日から13日の期間に、地元の中学・高校生に対する地域貢献活動として、夏休みに図書、視聴覚教育資料などを有する図書室の開放を行い、延29名の生徒が参加した。

例年開催されている、千葉東病院との連携事業「腎臓にやさしい減塩料理教室」は、新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催となった。

### (1) 自治体との連携事業について

自治体との連携事業については、千葉市保健福祉局発行の小学生を対象とした千葉市食育&消費者教育情報誌「おいしくタベルたのしくマナブ」について、学生とともに作成に協力した。

また、茨城県常総市とは、介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業のサポートを行うとともに、2009年度からの継続した追跡調査により事業評価を行い、介護予防に向けた持続可能な当事者共創社会の構築をめざす予定である。(文責：櫻井一雄)

## 3. 埼玉キャンパス

埼玉キャンパスでは、2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学生が参加するボランティア活動、地域の祭事・イベント運営への企画といった取組がおしなべて中止となった。

特に民間の商店会連合会等が主催する祭事・イベントについては、各商店自体の経営が厳しくなったことで中止を余儀なくされるケースが出ている。一例として、富士見市のつるせよさこい祭りは、例年、経営学部2年生が実行委員会として祭事の企画・運営に参画してきたが、2年間連続で中止したことにより踊り子チームの参加者が集まらなくなり、チームが解散に追い込まれた。現在、実行委員会は祭り自体の終了を検討している。一方、行政が主催の大型イベントは、運営母体が財政的に安定しているので、経営母体自体の解散の動きはない。

感染症拡大期における対応のひとつとしてオンライン対応が挙げられるが、行政が主催者となる事業のオンライン化の可否は、主催者のリソース(特にITリテラシー、人員不足)に拠るものが多い。また、本学主催のオンライン公開講座についても、リピーターの中心層である高齢者の参加は難しく、講座内容によっては参加者数が伸び悩んだため、企画段階で講座内容と受講者層のマッチングを充分に行う必要がある。

今後は行動制限解除を受け、大規模なイベント系事業についても徐々に再開していくと見込まれる。行政や各団体等との調整を重ね、人数制限や一部オンライン対応等の感染症対策を講じることで、規模を縮小しても活動を途絶えさせない、持続可能な取組の模索が必要である。また、オンライン公開講座には、全国各

地から参加可能な上、運營業務の効率向上が期待できるというメリットがある。講座内容の精査およびカメラテスト等の準備を確実にを行い、イベント内容に応じて適宜導入することで、アフターコロナにおいても新たな社会連携の取組として活用可能であると考えられる。

### (1) 自治体との連携事業について

埼玉キャンパスでは、富士見市、三芳町、和光市と包括的な連携に関する協定を締結している。2021年度においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりイベント系事業の多くが中止となったが、下記事業については、埼玉キャンパス危機管理室の感染症対策ガイドラインに基づき、行政と調整を重ねて実施に結びつけた。

教育学部と富士見市のフレンドシップ事業「子ども大学☆ふじみ」「子どもスポーツ大学☆ふじみ」「子ども文化芸術大学☆ふじみ」は、富士見市施設において人数制限等の感染症対策を講じて行われ教育学部の学生、女子ソフトボール部がスタッフとして参画した。

三芳町は、活動ごとに町役場の担当部署が異なるため、活動内容に応じてキャンパス関係部署と役場の担当部署にて、個別にイベントやプロジェクトの連携事業を進めている。東京五輪において三芳町はオランダ女子柔道チームのホストタウンとなり、本学およびオランダ女子柔道連盟との三者間協定を締結している。大会直前の7/18~7/22には、本学武道場を提供して事前トレーニングキャンプを実施した。また、富士見同様に実施している「子ども大学みよし」は参加者や学生の安全第一を優先して取組が中止となったが、小学校の支援ボランティアについては、感染症対策を講じて学生派遣を行った。

上記の他、和光市とも包括協定を結んでいるが、審議会への教員派遣にとどまった。

### (2) 締結している自治体以外との自治体との連携事業

横瀬町および道の駅果樹公園あしがくぼとは連携事業を例年実施しており、現在はハイキング路の造成をするために、学生を手分けして、踏破調査を行っている。この関連で国土交通省関東整備局主催の「道の駅と大学の連携事業」でも観光経営学科の岩村ゼミが調査報告の発表を行ってきた。2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、リモートでイベントに参加。

この他、新潟県阿賀町では、経営学部の実習生がインターンシップを受け入れており、学生が地域の祭事の運営に参画している。

### (3) 企業、経済団体、NPO 団体等との産学官連携事業について

#### (1) 自治体と連携した活動

- ・横瀬町道の駅果樹公園あしがくぼ：経営学部「フィールドワーク」での学生受け入れ
- ・板橋区立エコポリスセンター：インターンシップ受け入れ

#### (2) 観光協会と連携した活動

- ・川越市観光協会：観光経営学科の学生視察受け入れ
- ・志賀高原観光協会：志賀高原オリンピックホテルにて、企画段階からホテル実務に参画するPBL（課題解決型学習）プログラムを実施。

#### (3) 企業、各種団体等と連携した活動

- ・石坂産業株式会社：経営学部「フィールドワーク」受け入れ
- ・早川農園（三芳町）：三芳町「世界一のいも掘り大会」での学生ボランティア受け入れ
- ・東武グループ：観光経営学科「観光経営研究」等での講師派遣、見学、実習先
- ・株式会社JTB川越支店、株式会社温泉道場、株式会社ズキ自販西埼玉：インターンシップ受け入れ
- ・NPO法人れでいばど：「三芳おなかま子ども食堂」での学生ボランティア受け入れ

（文責：岩村沢也）

## 4. 東京キャンパス

### ア) 認知症サポーター養成講座

板橋区との地域連携で行っている事業で、原則として板橋区在住、在勤、在学の方が参加可能。

しかし、板橋区のHPなどには同事業に関する掲載情報はなく、地域住民の参加が少ないことから板橋区より広報・周知に関する協力依頼があった。

2023年度は、感染症対策が緩和されるため、より積極的な広報を検討したい。

### イ) 学習支援ボランティア

感染症対策のため、2021年度は実施しなかった。（2022年度は、板橋区教育委員会が東京キャンパスに来校して、学習支援員ボランティア制度について説

明。ボランティア登録者の募集を行ったが、久しぶりの募集のため、学内での周知が行き届かず、2023年度は広く広報を行いたい。）

### (1) 自治体との連携事業について

#### ア) 認知症サポーター養成講座

歴史学科の教職課程を希望する学生の介護等体験の事前学習に位置づけた連携を行っている。

本キャンパスでは、歴史学科の教職課程の学生は2年次に認知症サポーター養成講座を受講することで、社会福祉施設での介助の役割について学んだ上で、介護等体験に申し込み、3年次に介護等体験を行っている。

### (2) 締結している自治体以外との自治体との連携事業特になし

### (3) 企業、経済団体、NPO 団体等との産学官連携事業について

特になし

（文責：鈴木織恵）

## Ⅲ. 受託事業

### 1. 千葉県子ども若者市役所



「千葉県子ども若者市役所」では、千葉市が取り組んでいる子ども若者の社会参画事業の一環で、若者が自分たち自身の「社会的な影響力」を知り、自らが当事者となり、主体的に地域や社会の課題解決に取り組むことができる仕組みづくりを進めている。

2017年度から開始された本事業は、5年目を迎え、1年間の活動を通じて、延べ315名（12回のワークショップ、2回の夏休み子ども教室、2回の子どもメリクリカフェ、1回のちばの野菜スタンプラリーの計17回の活動）が参加した。2021年度は、2020年度に続

き、新型コロナウイルス感染症の流行が続いたものの、基本的には対面でのワークショップの開催や企画を実施することができた。

2021年度は、例年と同様に、「ヨコ」と「タテ」のつながりづくりを意識しながら、活動を行った。「ヨコ」のつながりでは、ちば産学官連携プラットフォームに参画する千葉市内、市原市内にキャンパスを持つ大学・短大の学生同士の「つながり」を生み出すとともに、市内に在住・在学の高校生同士、高校生と大学生との「つながり」を生み出すことができた。異なる学校で学んでいる同年代の若者が集まり、交流することにより、新たな発見を得るとともに、異なる専門性を組み合わせることで新たな可能性が広がった。

また「タテ」のつながりでは、「夏休み子ども教室」、「子どもメリクリカフェ」、「ちばの野菜スタンプラリー」の対象を未就学児及び小学生を対象とし、高校生や大学生と未就学児や小学生との「つながり」が意識された。例年の取り組みを通じて、過去の企画に参加してくれた小学生が参加してくれるなど、常連となる参加者も生まれてくるなどの事例も生まれた。取り組みが定例化することにより、千葉市子ども若者市役所の取り組み自体が、小学生やその保護者にも浸透し始めていると考えられる。このことは、こうした機会に参加した小学生が、高校生になったときに、千葉市子ども若者市役所の取り組みの参加メンバーとなってくれることで、この取り組みの社会参画に対する効果に結び付いてくるものと考えられる。

2021年度の主要テーマは、「大学等の施設を活用したこどもの居場所づくり」と「産学官連携での千葉市の魅力発信」、「千葉市の課題を解決するための提言をしよう！」であった。

### (1) 大学等の施設を活用した「こどもの居場所づくり」

8月12日と18日に「夏休み子ども教室」、12月11日と19日に「子どもメリクリカフェ」を開催した。

大学生や短大生、高校生が主体的に「こどもの居場所づくり」の活動を行う上で、継続的に行っていくための方法として、大学等の施設を活用することが考えられるため、こうした取り組みを通じて、その可能性を確認している。その理由として、大学生や短大生、高校生が地域に出るだけでなく、大学や短大、高校の施設を地域に開放することで、授業の空き時間や放

課後等を活用して、担当者が交代・輪番をしながら、「こどもの居場所」を提供していくことができれば、継続性が担保されるのではないかと考えられるからである。

### 夏休み子ども教室

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、「みんなのオンラインスクール」として開催したが、今年度は、感染症対策を徹底した上で、「夏休み子ども教室」を開催することができた。

夏休み子ども教室では、高校生や大学生が「先生」となって、小学生のこどもたちの夏休みの宿題に取り組んだり、一緒に遊んだりする「寺子屋」的な活動として取り組んだ。「遊び」の内容や「ものづくり」の内容は、大学生・高校生が自ら考え、創意工夫を行った。

#### 「夏休み子ども教室」

日時：2021年8月12日（木）13：00～16：00

会場：淑徳大学

参加者：小学生 計9名

※新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、事前申し込み制・人数制限を行った（15名）

日時：2021年8月18日（水）13：00～16：00

会場：淑徳大学

参加者：小学生 計10名

※新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、事前申し込み制・人数制限を行った（15名）



## こどもメリクリカフェ

「こどもメリクリカフェ」は、これまで稲毛区にある千葉経済大学を会場に行ってきたが、今年度は、場所を中央区にある淑徳大学と千葉明德短期大学に移し、活動を行った。場所を変更した理由としては、千葉経済大学では過去3か年にわたり企画を実施し、一定の参加者を集めることができるようになったという状況で、千葉市子ども若者市役所の活動のすそ野を広げるために、対象地域を変えることがある。その点で、千葉明德短期大学は、中央区に所在するが、緑区にも近く、かつ、附属の幼稚園もあるため、千葉明德短期大学に場所を移すことにした。今年度については、淑徳大学でトライアルを行い、その結果を踏まえ、千葉明德短期大学で開催することとした。

### 「こどもメリクリカフェ」

日時：2021年12月11日（土）10：00～13：00

会場：淑徳大学

参加者：未就学児及び小学生 計30名

※新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、事前申し込み制・人数制限を行った（30名）

日時：2021年12月18日（日）10：00～13：00

会場：千葉明德短期大学

参加者：未就学児及び小学生 計50名

※新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、事前申し込み制・人数制限を行った（50名）

プログラム内容：

- ①石鹸づくり・松ぼっくりツリーづくり
- ②千葉敬愛学園高等学校大道芸サークルによるパフォーマンス
- ③千葉明德短期大学手話合唱サークルによるパフォーマンス
- ④ビンゴ大会



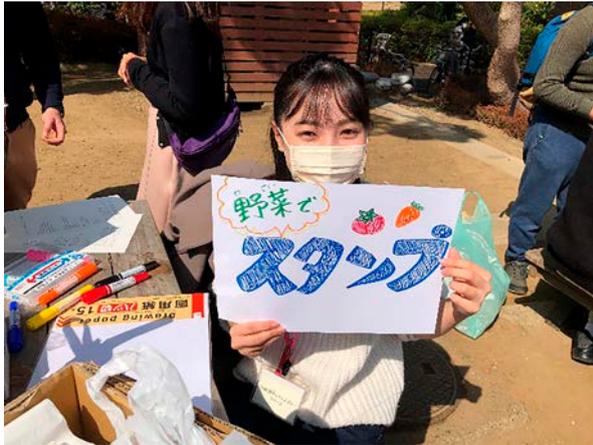
## (2)「産学官連携での千葉市の魅力発信」

3月5日に「ちばの野菜スタンプラリー」を開催した。2021年は、千葉市制100周年の記念の年であったため、その機会に、「都市アイデンティティ」が醸成できるような取り組みを検討した。4月のワークショップでは、都市アイデンティティ推進課から千葉市の取り組みについて説明を聞き、11月のワークショップと1月のワークショップでは、前千葉市観光プロモーション課長の桜井篤氏を講師に迎え、企画内容を検討した。こうした検討を経て、都市アイデンティティとは、「自分たちの魅力に気付き、それを他者に伝えることができること」と捉え、市民が自分たちの「まちの魅力」について知ることが重要であると考え、千葉市の「魅力」のひとつである「農業」に注目した。また、地域の共通の記憶となり得る「こどもの頃の学校給食」も大きなアイデンティティになり得ると考えた。しかし、千葉市には、他地域から移住してきた市民も多いため、「学校給食」の体験企画についても検討を行った。「学校給食」の企画については、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、まん延防止措置の期間にもなってしまったため、次年度に企画を延期し、3月5日は、千葉市の「野菜」を知るための「野菜スタンプラリー」を千葉公園で開催し、クイズを交えたスタンプラリーと野菜スタンプによるお絵描きワークショップを開催することとなった。

日時：2022年3月5日（土）13：00～15：00

会場：千葉公園

参加者：未就学児及び小学生 計40名



### (3)「千葉市の課題を解決するための提言をしよう！」

千葉市スマートシティ推進課と連携し、千葉市のスマートシティ推進プランについて、高校生や大学生の視点から検討し、提言を行った。活動を進めるにあたり、千葉市内の6区をそれぞれ担当するグループに分かれ、担当する区の課題等を発見し、その課題を解決するためのスマートシティプランを検討した。グループ分けにおいては、「自分ゴト」から「みんなゴト」にしていくことを踏まえて、自分が実際に住んでいる区であったり、通学している学校がある区を担当し、自分にとって身近な問題として考えることができるように編成した。

また、下記の3点を活動の基本的な方針として設定した。

- ①自分と関係が無いような「かけ離れた」スマートシティのプランではなく、自分に身近で、自分の日常生活に関わりがある内容を検討していくこと。(自分が住んでいたり、通学していたりする地域のことを考える)。「みんなゴト」

を「自分ゴトに」

- ②都市アイデンティティを醸成する機会にもするために、都市アイデンティティを検討テーマに盛り込む。「シビック・プライド」、「地元への愛着心」といったハードからソフトへ、ソフトからハードへのまちづくり。
- ③区ごとに分かれることで、自分たちの区をもっとより良くしようという「競争」と「共創」のゲーム感覚での楽しみ。

5月のワークショップでは、スマートシティ推進課より千葉市のスマートシティ推進プランについてレクチャーを受け、グループごとにスマートシティに関する理解を深めた。6月のワークショップでは、各区役所にも協力を得て、グループごとに、各区のスマートシティ推進プランを検討した。7月には、フィールドワークを実施し、6月に検討したプランのブラッシュアップを行い、8月のワークショップにて最終的な提言を取りまとめ、発表した。





## 5. スーパーマーケットの社会貢献活動に対する消費者意識調査（WEBモニター調査）に関する検討

財務面では、スーパーマーケット企業の財務データ等から、スーパーマーケット業界が抱える現状を整理するとともに、課題を見出し、今後の業界全体として検討すべき戦略の方向性を検討するものである。2021年度では、2020年の決算データを協会から提供されたので、特に、2019年と2020年の決算データの比較を行った。この比較の目的は、「新型コロナウイルス感染症流行」の前後にあたる決算データを比較することで、新型コロナウイルス感染症という「ショック」が、スーパーマーケット企業にどのような影響を与えたのかということ把握することにある。この分析については、因果推論の手法として、近年、取り組まれることが多いRDD（回帰不連続デザイン）による分析を松村俊英氏が担当した。

非財務面では、地域密着型スーパーマーケット企業の戦略として、財務諸表には反映されにくい地域貢献や社会貢献の取り組みが、顧客を創造し、かつ、持続可能な経営に結びついていくのか、ということ明らかにすることを目的としている。これは、近年、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）が声高に叫ばれる中、スーパーマーケット業界におけるSDGsの取り組みを整理するきっかけともなる。この研究は、スーパーマーケット企業の個別事例を調査し、各事例の共通性や差異を整理し、一定の示唆を得ることを目指す事例研究が中心となる。関連して、一般社団法人全国スーパーマーケット協会と淑徳大学では、「スーパーマーケット Good Action Initiatives」の協働事業に取り組んでおり、この活動を通じて得られた事例を、本研究の研究対象にするとともに、本研究で調査を行った事例を、「スーパーマーケット Good Action Initiatives」の協働事業に活かしていくという形で、本共同研究事業と「スーパーマーケット Good Action Initiatives」の協働事業とは、相互補完性を持つ関係にある。

地域密着型スーパーマーケット企業の地域貢献や社会貢献の取り組みに関する事例調査を通じて、地域貢献や社会貢献の取り組みは、CSV（Create Share Value：共有価値の創出）型の本業を通じた取り組みであるか、CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会

的責任）型の本業以外の部分での取り組みであるかの違いはあるが、企業にとっては「当たり前」の活動で、言い方を変えれば、「商売の原点」であることが改めて確認された。

わが国では、古来より、近江商人の教えとして、「三方よし」の言葉がある。「三方よし」とは、「自分」、「相手」、「社会」の三者が「良くなる」こと（自分よし、相手よし、社会よし）を商売の要諦として伝えるものである。

これは、SDGsが目指す価値にも通じるものであり、言い換えれば、SDGsが目指す価値は、わが国では古来より、商売に根付いていたと言える。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会が実施したスーパーマーケットの地域貢献・社会貢献の取り組みに対する消費者の意向に関するアンケート調査結果からは、「エシカル消費」という言葉も耳にするように、消費者の意識も変わりつつあることが明らかになった。

現状では、こうした意識が価格差に及ぼす影響は小さいと言えるが、価格差が無い場合には、SDGs、地域貢献、社会貢献に取り組むスーパーマーケットが「選ばれる」可能性が示唆されている。消費者の意識が変われば、スーパーマーケット企業も、よりSDGs、地域貢献や社会貢献の取り組みを推進していくとともに、それを適切に消費者に伝えていくことが求められる。そのためには、スーパーマーケットが取り扱う商品も変わっていくことも必要である。つまり、仕入先やメーカーも変わることが求められるし、卸売も物流も変わっていく必要がある。この点について、研究代表者である矢尾板俊平が『2022年版スーパーマーケット白書』（「スーパーマーケットのSDGs～スーパーマーケット Good Action Initiativesが目指すもの～」）に論考を寄稿した。

顧客にとって、地域密着型スーパーマーケットは、地域の生活インフラである。人口減少に伴う商圈の縮小の中で、地域密着型スーパーマーケットが目指すべき新たな競争戦略は、自社が属する地域や社会環境の中で生じる「課題」に積極的に取り組み、それを新たなマーケットに代えていくことであると考えられる。このことをスーパーマーケット Good Action Initiativesの事例は示唆する。

## スーパーマーケット Good Action Initiatives

主催：一般社団法人全国スーパーマーケット協会／淑徳大学地域連携センター

スーパーマーケット Good Action Initiatives 実行委員会

委員長：矢尾板俊平（淑徳大学学長特別補佐、大学地域連携センター長、コミュニティ政策学部教授）

副委員長・総合プロデューサー：中川直洋（弥蔵舎株式会社代表取締役）

委員・デザイナー：浅井由剛（株式会社カラーコード代表取締役、京都芸術大学准教授）

委員：長瀬直人（一般社団法人全国スーパーマーケット協会）

委員：山本直史（株式会社エコリング代表取締役）

事務局：大城百花

映像制作：長田楓加

### 発表事例

スーパーサンシ株式会社「ネットスーパー&安否確認御用聞き、生活丸ごと何でも解決サービスについて」  
株式会社斗々屋「日本初ゴミの出ない「ゼロウェイスト」なスーパーマーケット 斗々屋」

フレンドフーズ有限会社「コロナ禍の地元飲食店を応援！スーパーマーケットが、地元飲食店の折込広告を8日間連続で発行！」

株式会社ホクノー「地域住民の健康をサポートするスーパー設置型コミュニティスペース「ホクノー健康ステーション」」

株式会社マルト「～様々な災害を乗り越えて～ 地域のライフライン、マルトグループの災害対応」

スーパーマーケット Good Action Initiatives 2022

日時：2022年2月16日 11:25～12:55

場所：幕張メッセ（千葉県千葉市美浜区中瀬2-1）

主催：スーパーマーケット Good Action Initiatives 実行

### 委員会

運営：淑徳大学地域連携センター、弥蔵舎株式会社、株式会社カラーコード

協力：一般社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト、ちば産学官連携プラットフォーム

目的：スーパーマーケット Good Action Initiatives をスーパーマーケット版SDGsと位置付け、スーパーマーケットは、地元には欠かせない『地域の「社会のインフラ」』であることを顧客に再認識してもらうため、各社が取り組んでいる「お店作り」や「地域貢献・社会貢献」等の取り組みの事例を発表し、パネルディスカッションにおいて、その価値を深掘りし、発信すること。

プログラム内容：5社のスーパーマーケットの取組事例を発表後、パネルディスカッションで、その取組事例を深掘りし、その社会的価値や意義を社会に発信した。

(パネリスト)

ファシリテーター：町井則雄（株式会社SHINKA代表取締役）

パネリスト：安島浩（株式会社マルト代表取締役社長 全国スーパーマーケット協会常任理事）

パネリスト：江成道子（一般社団法人日本シングルマザー支援協会代表）

パネリスト：菅原佳己（スーパーマーケット研究家）

パネリスト：矢尾板俊平（淑徳大学 学長特別補佐 コミュニティ政策学部教授）

進行：大城百花 スーパーマーケット Good Action Initiatives 事務局

## 活動報告

## 2022年度地域連携センター 事業報告

## I. 2022年度の事業概要

## 1. 私立大学等改革総合支援事業への選定

2022年度は、2021年度に引き続き、私立大学等改革総合支援事業タイプ3（「地域社会への貢献」プラットフォーム型）に選定された。

私立大学等改革総合支援事業タイプ3（「地域社会への貢献」プラットフォーム型）は、ちば産学官連携プラットフォームとして申請し、共通設問の点数で、まずプラットフォーム単位で選定される。次に、各校の個別設問の点数で、個別の大学が選定されるという二段階での選定となる。

申請にあたっては、引き続き、本学が申請取りまとめ校となり、大学地域連携センターが申請取りまとめの担当部署として、プラットフォーム参画校と連携・協力し、申請作業を進めた。

2022年度の選定率は、63%（昨年度は58%）と、5%の増加となった。また、昨年度の申請数が175校であるのに対し、2022年度も175校と申請校数は変わらなかった。2018年度の申請校が247校であったことを考えれば、私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献」（プラットフォーム型）に申請すること自体の難易度が高いことには変わらないが、選定校は増加している。昨年度と比べても高くなってきているとともに、選定校が「固定化」されてきている。今後の課題としては、地域の高等教育の将来像を描き、そのゴールに向けた事業設定と実績の積み重ねにあると言える。そのことが設問項目の変更に対する柔軟な対応にもつながり、継続的かつ安定的な選定の条件となると考えられる。

## 2. リカレント教育・履修証明プログラム事業

「履修証明制度」は、大学等の積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の方を対象とした、60時間以

上の一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書を交付できるという制度である。

2021年度も、千葉キャンパス授業開放講座対象科目の授業開放講座の取り組みと連携し、取り組みを進めた。

淑徳大学履修証明プログラム  
「利他共生社会と教養プログラム」

## ◆履修証明認定条件

- ①各科目区分から1科目以上、計6科目を受講
- ②オリエンテーション（利他共生社会（「共生論」「仏教福祉論」）、千葉学等）
- ③現代社会の問題を考えるための教養を学ぶ 科目区分・開講科目（計20科目）
  - ・人間理解科目（5科目）  
「現代人の生活倫理」「人間の心理と行動」「健康科学と身体運動」「心と身体健康管理」「チームワークとリーダーシップ」
  - ・文化理解科目（5科目）  
「日本社会と歴史文化」「アジアの文化と暮らし」「文学作品と文学表現」「伝統文化と民俗世界」「多文化と異文化理解」
  - ・社会理解科目（5科目）  
「経済構造と経済政策」「法律社会と人権問題」「政治社会と行政問題」「福祉政策と社会保障」「社会貢献と地域活動」
  - ・国際理解科目（5科目）  
「宗教社会と民族文化」「国際関係と外交課題」「世界動向と国際貢献」「環境保護と野外活動」「生命科学と生命倫理」
- ④現代社会の問題を探究するための基礎的な知識を深める開講科目（計14科目）
  - ・心理学を探究する（4科目）  
「心理学概論」「組織心理学」「犯罪心理学」「高齢者心理学」
  - ・地域や社会の仕組みや政策課題を探究する（10科目）  
「現代社会論」「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「憲法」「民法（総則、物権法）」「債権法」「労働法」「公共政策論」「地域政策論」「地域振興論」
- ⑤上記科目に加え、淑徳大学の正課外活動（フィールドワーク）への参画も学修時間に加えることができるようにする。（例：地域連携・社会連携のプログラム、ボランティア活動、公開講座 等）

## 3. 共同研究事業及び連携事業（受託事業）

共同研究事業及び連携事業（受託事業）については、千葉市から「千葉市子ども若者市役所事業」、「町

内自治会ワークショップ事業」、千葉県酒々井町から「酒々井町文化財基本調査「清光寺」史料調査業務委託」、一般社団法人全国スーパーマーケット協会から「地域密着型スーパーマーケットの新たな競争戦略に関する共同研究」と「スーパーマーケット Good Action Initiatives 事業」の5件の受託事業を実施した。

#### 4. 大学間連携事業

大学間の連携事業としては、ちば産学官連携プラットフォーム、京都文教大学、埼玉工業大学と本学の三大学における「地方と東京圏の大学生対流促進事業の共同実施に関する協定」に基づき、内閣府地方創生支援事業費補助金（地方と東京圏の大学生対流促進事業）「産官学民『ともいき学習』による持続可能な地域社会創造人材育成」（代表校：京都文教大学、協働校：埼玉工業大学・淑徳大学）事業に取り組んだ。なお、「産官学民『ともいき学習』による持続可能な地域社会創造人材育成」は、2022年度がフォローアップ最終年度を迎えた。

また、2022年度も連携協定を締結している大正大学と合同フィールドワーク（千葉市）を実施した。

## II. 各キャンパスでの取組

### 1. 千葉キャンパス

千葉キャンパスにおける地域連携（産学連携）・社会連携の取組には、学生が参加するサービスマーケティングや多様なボランティア活動、地域の祭事の企画・運営への参画、授業開放講座がある。ここでは、上記の活動の内、サービスマーケティング活動と授業開放講座における実施内容の検証、課題抽出、改善のための対応を記載する。

サービスマーケティング活動とは、「地域との連携で参加型・双方向型の体験学習を行い、地域で学んだことをさらに自ら学問研究や進路について視野を広げていく新しい教育プログラム」のことである。千葉キャンパスに設置されているコミュニティ政策学部では、「実践科目」としてサービスマーケティング活動が正課のカリキュラムに取り入れられている。また、サービスマーケティングセンターによる独自のプログラムが企画・運営され、多くの学生が体験学習を通じて地域連携、

社会連携の活動を行っている。

サービスマーケティングセンターの活動においては、2019年度から事前事後学習を深めることを狙いとして、各プログラムの内容の中に「振り返り会」を実施するように改善した。また、2019年度よりスタートしたプログラムは、学生の認知度が低く、参加学生が少ないという課題が挙がっており、プログラムの認知度を上げることによって参加拡大を目指す必要が生じた。今後は、サービスマーケティングセンターの独自プログラムについて、ルーブリック評価の活用も検討していきたい。

授業開放講座は、大学の教育・研究を広く地域に提供することを目的に、正課の授業の一部を一般の方々に開放するという取組である。2022年度は、前期に32科目、後期に38科目を開放の対象として実施し、前期4名、後期9名が参加した。新型コロナウイルス感染症対策のため、授業定員が厳格化されたことで、希望する講座が受講できずに辞退される方がいることが課題となっている。参加者について検証したところ、今年度から授業開放講座に参加される方の割合が多くみられ、前期3名、後期6名が新規受講者となり、前期の受講者全員が後期も受講する結果となった。講座の周知方法としては、従来通り大学HPへの掲載と「ちいき新聞」への広告掲載に加えて、2022年11月14日、千葉市生涯現役応援センターが主催する、「シニアのための生涯学習フェスタ」に参加し、プレゼンテーションを行った。2023年度より、S-BASICが開始され、授業開放講座の在り方も大きく変化することが予想されるが、様々な媒体を活用して、コロナ禍以前の受講者の水準を目指す。

#### (1) 自治体との連携事業について

千葉キャンパスでは、2017年より千葉市と包括的な連携に関する協定を締結している。本協定の締結により実施に向け検討する主な事業のひとつとして挙げられている「パラスポーツ講座・交流会の開催など共生社会の実現に向けた取組」は、新型コロナウイルス感染症の対策を施したうえで、2022年11月26日に車いすバスケットボールチームの千葉ホークスより田中恒一選手、川原凜選手、緋田高大選手、池田紘平選手等の他、担当課である千葉市スポーツ振興課の職員も来学され、2号館記念体育館アリーナにて開催された。

新型コロナウイルス感染症の対策に頭を悩ませなが

らも3年ぶりに開催された前回大会に続き、2023年2月25日～26日、千葉キャンパスの学生が企画・運営に参加している「第12回 長谷川良信記念・千葉市長杯争奪車いすバスケットボール全国選抜大会」を開催した。学祖の名を冠するこの大会は、2010年の第1回企画から千葉市、(公財)千葉市スポーツ協会、淑徳大学の三者が、例年、3月上旬に共同で開催している。4年ぶりの有観客となる開催で、学生たちは初めての業務に戸惑いながらも、大会を大いに盛り上げた。なお、観客動員数は、2日間で会場参加が約1,400名、YouTube配信視聴者数が8,700名、合計10,100名と、前年の2.5倍、コロナ禍前と比較すると5倍という結果となった。

2021年10月より、淑徳大学、千葉市社会福祉協議会白旗台地区部会、社会福祉法人千葉市社会福祉協議会の三者が、千葉市と包括的な連携に関する協定に基づき、覚書を締結して、「ふれあい食事サービス事業」を協働実施している。この事業は、高齢者の心身健康保持及び社会参加の促進を図り、高齢者福祉・地域福祉の向上に寄与するため、千葉市社会福祉協議会白旗台地区部会エリアの独居高齢者の方々を対象に、お弁当を配食する内容となっている。お弁当については、看護栄養学部栄養学科の藤谷ゼミがメニュー考案を行い、千葉第二キャンパスの食堂業者であるMKFグループ株式会社が、大学食堂にて調理を行っている。配食については、「福祉デザイン実践実習Ⅰ」の受講生や学内ボランティア団体「共生スタッフ」が、学生ボランティアとして、社会福祉協議会や民生委員の方に同行して、お弁当を届けている。2021年10月より、月1回のお弁当の配食を実施してきたが、2022年4月からは月2回に頻度を増やし、現在も継続して取組んでいる。

## (2) 締結している自治体以外との自治体との連携事業

千葉県立生浜高等学校との教育連携に関する協定に基づく活動がある。生浜高校と淑徳大学は、2015年度に総合福祉学部及びコミュニティ政策学部の学生・教職員が生浜高校の教職員と連携して「しゅくとも」を立ち上げ、継続的に活動を行ってきた。「しゅくとも」の活動は、月に2回程度、生浜高校へ赴き、学校生活などに不安のある生徒に向けてコミュニケーション練習会や相談会を行い、生徒たちの苦手意識を軽減させて高校の定着率・出席率向上を目指す活動を行ってき

たが、新型コロナウイルス感染症の影響により高校への立ち入りができなくなったため、通常の活動を行うことができなかった。同校とは、2021年7月～2022年3月にかけて、計5回、「校内居場所カフェ」の取組を実施してきた。この取組は、高校生への福祉的支援を目標とした活動であり、高校生がしばしば産学官連携プラットフォームの大学生とのコミュニケーションや交流機会を持つことで、高校生の第三の居場所を創るとともに、必要であれば、専門的な支援につなげていくことを目指す活動だ。このことをプログラムの「軸」として、高校生と大学生との「ナナメ」の関係での交流や「語り合い」を通じて、高校生が抱えている課題を共に話したり、交流したりする機会を設けた。2022年度からは、関係者間の「校内居場所カフェ」の目的のズレから、実施がなされていない。

同じく千葉県内5地域に所在している「千葉県生涯大学校」と包括連携協定を締結している。これまでも淑徳大学の教員が千葉県生涯大学校の講師を務め、本学が企画する公開シンポジウム、研究会に千葉県生涯大学校の関係者や学生の皆様が参加するなど、教育研究を通じた交流を行ってきた。

次に、「地方と東京圏の大学生対流促進事業の共同実施に関する協定」に基づく、「産官学民『ともいき学習』による持続可能な地域社会創造人材育成」事業がある。京都文教大学を代表校、埼玉工業大学と淑徳大学を協働校とする本事業では、単位互換制度を活用した国内留学プログラム(長期プログラム)や短期間の滞りで現地調査や地域活動に参加する短期プログラムを実施し、各大学が有する資源やネットワークを活用しながら、観光や地域づくりの分野で、学生の「学びの場」を広げていくとともに、学生や教職員が地域の課題解決に関わることで、地方創生の取組に貢献していきたい。2022年度は、「京都南部地域課題解決クラス」(2023年1月31日～2月6日)が開催され、2名の学生が参加した。

## (3) 企業、経済団体、NPO団体等との産学官連携事業について

千葉キャンパスでは、サービスラーニングセンターが企画・運営を行っている独自プログラムにおいて、様々な企業・団体と連携事業を行っている。2022年度のサービスラーニングセンターの独自プログラムとして、「千葉ロッテマリーンズ・淑徳大学スペシャルナ

イタープログラム」「四街道市役所（みんなで地域づくり推進）プログラム」「四街道警察署プログラム」「京都府南部行政・経済等課題解決プログラム」「東京ガールズコレクションプログラム」を取り上げる。

「千葉ロッテマリーンズ・淑徳大学スペシャルナイター」は、プロ野球球団である千葉ロッテマリーンズと連携し、マリナーズの試合観客数アップを目標とした様々な取組を行うプログラムだ。

「淑徳大学スペシャルナイター」当日は、車いすバスケットボール学生実行委員17名、ジャグリングサークル徳能雑技団6名と連携して計50名以上の学生がスタジアムの内外で様々な取組を行った。2021年度は緊急事態宣言下で本プログラムの活動が限られていたが、当日は2万人以上の来場者となり、多くの方々に学生の活動を体験・周知できる機会にもなった。

また、入場チケット受付ゲートでは、6万3千枚のチラシを配付した。コミュニティ政策学部と各学部学科の紹介チラシ、龍澤祭・車イスバスケットボール大会の宣伝チラシ、コミュニティ政策学部生がデザインしたキリンビバレッジ株式会社のPOP、千葉県警察の防犯チラシ、消費者庁のチラシ等を配布した。試合前セレモニーではコミュニティ政策学部の2年生が、千葉ロッテマリーンズ井口監督への花束贈呈および始球式を行い、2万人以上の観衆に見守られながらも、本プログラムの代表者として大役を果たした。特に始球式を務めた学生へはマウンドだけでなく球場全体からも歓声と拍手があがった。

2022年度より、四街道市役所（政策推進課）及び四街道市みんなで地域づくりセンターと連携して、市内のNPOや市民団体と協働して、地域コミュニティをめぐる諸課題（まちづくり、環境保護、地域防災等）を発見し、市役所職員や住民とともに諸課題を検討するプログラムを開始した。四街道市は、自然と都市機能が調和したまちとして、今なお人口が増加している自治体であり、「千葉県の笑くぼ」（千葉県（チーバくん）の笑くぼの位置）として、市の認知度向上やイメージアップを推進しているところである。今後は、四街道市に実際に赴いて、市役所職員の皆さんの協力を得ながら、四街道市内に内在する魅力を発信し、情報誌の編集過程に関与するなど、積極的にプログラムを展開予定である。また、プログラムの一環として市役所の各業務を体験するインターンシップも実施予定だ。

「四街道警察署連携プログラム」は、千葉県警察四街道警察署の全面的な協力をいただき、サービスラーニングセンター独自企画として実施した。四街道警察署を訪問して警察業務の一端に触れ、警察の仕事の理解を深めることを目的としたものである。複数のプログラムを用意していただき、濃密な体験となった。主な内容としては、「移動交番業務の学習」「鑑識業務（指紋採取・足跡採取）の体験学習」など、テレビドラマなどでしか見ることのない体験が行えた。このほか、現役警察官との座談会を開催し、警察業務が幅広く多岐に渡ることを学ぶ一日となった。

2022年9月3日に開催された「東京ガールズコレクション（TGC）プログラム」は東京ガールズコレクション2022 AUTUMN/WINTER（以下、TGC）にてTGCインターンシッププログラムを実施した。全学で18名、総合福祉学部から5名、コミュニティ政策学部からは13名が参加した。

8月16日のインターンシップ事前学習会では、史上最大級のファッションフェスタ「東京ガールズコレクション」の歴史や特徴、そしてビジネスとしてのTGCについて学んだ。また、ここでは当日の業務担当やスタッフとしての心構えも説明された。そしてインターンシップは9月2日の前日リハーサルから始まり、会場となるさいたまスーパーアリーナに集合して、全体を把握するためのリハーサル、本番当日のスケジュール確認、バックヤードでの出演者導線の確認などに参加した。現場には多くの関係者が会場を歩き来しており、参加学生は緊張感を持ちながら前日リハーサルに臨んだ。

9月3日のTGC当日は、取材サポート業務とフィッター（衣装の着替えサポート）業務の2チームに参加学生が分かれて活動した。取材サポート業務では、バックヤードで取材を受ける出演者の誘導や取材のサポートを行い、フィッター業務ではモデルやタレントが着用する衣装や小物の準備、出演時間を把握したサポート業務を行った。

当日は早朝からの長丁場であったが、TGCという大きなイベントを裏方から見ることに、運営に参加すること、参加して気づくことなど、TGCのスタッフとして臨機応変に対応をしながら無事にプログラムを実施することができた。

未だに新型コロナウイルス感染症の影響で学生らの活動にも制限があるものの、部活やサークル・ボラン

ティア活動・サービスラーニングセンタープログラムなど、少しずつ対外的に活動できる機会や場所が戻って来ているのではないかと感じる。感染対策に考慮しながら、サービスラーニングセンターでは「地域」を学びのステージに、自治体や企業などと連携し、学生が自ら課題意識や目標に取組める体験学習を実施していきたい。(文責：大久保・松崎)

## 2. 千葉第二キャンパス

千葉第二キャンパスでは、2022年度で10年目となったボランティア講座における活動が地域連携・社会連携の中核となっている。これは、看護栄養学部の地域連携委員会と松ヶ丘中学校地区の諸団体や住民が連携し、学生が地域でのボランティア活動を通して、共生の理念を具現化し、将来、ボランティア活動に自ら参画・企画する能力を培うことを目的としている事業である。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響があったが、活動が制限される中でも、創意工夫を行い、ボランティア活動を実施した。

なお、ボランティア講座は、遠隔会議システム(Zoom)を用いた講義(オンデマンド動画対応も含む)を行うとともに、学生との連絡、課題提出、教材提示等を目的として、学習支援システム(Google Classroom)を用いて、ほぼすべてオンライン上で以下の通り実施した。

### ・第1回ボランティア講座

日時：2022年9月10日(土)

内容：1. ボランティアの基本を学ぼう！  
2. オンラインロールプレイ(ボランティア場面での対応)

講師：淑徳大学 総合福祉学部 教育福祉学科  
永井大樹氏

### ・第2回ボランティア講座

日時：2022年12月10日(土)

内容：「子どもの力を引き出すコミュニケーション～チャイルド・ライフ・スペシャリストの実践から～」

講師：井上絵未氏

なお、2022年度は、コロナ禍の中でありながら、「松ヶ丘中学校地区育成行事」「松ヶ丘中学校地区育成行事子どもまつり」「子ども食堂」などを実施した。

教員の地域連携活動は、以下の通りである。

・淑徳オレンジカフェ(認知症カフェ)

9回実施

・松ヶ丘中学校区「子ども食堂」

テイクアウト弁当作成のみ(例年6回程度実施)

・こども110番協力家庭の訪問

2022年6月4日(土)学生5名が参加して実施

・松ヶ丘地区との連携の健康教育・栄養講話

15回実施(例年18回程度実施)

・献血ボランティア

2022年11月17日(木)学生12名が献血の勧誘、受付等を実施

また、コロナ禍であったが、昨年度に引き続き、8月9日から23日の期間に、地元の中学・高校生に対する地域貢献活動として、夏休みに図書、視聴覚教育資料などを有する図書室の開放を行い、延11名の生徒が参加した。

例年開催されている、千葉東病院との連携事業「腎臓にやさしい減塩料理教室」は、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催となった。

### (1) 自治体との連携事業について

自治体との連携事業については、千葉市保健福祉局発行の小学生を対象とした千葉市食育&消費者教育情報誌「おいしくタベルたのしくマナブ」について、学生とともに作成に協力した。

また、茨城県常総市とは、介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業のサポートを行うとともに、2009年度からの継続した追跡調査により事業評価を行い、介護予防に向けた持続可能な当事者共創社会の構築をめざす予定である。

(文責：櫻井一雄)

## 3. 埼玉キャンパス

自治体が主催する催事イベントは、コロナ禍後徐々に回復してきたが、みよしまつり、みずほ台祭り等4万人を超える不特定多数参加の大規模イベントは中止となり、経営学部の「ボランティア研修」「企業経営研究」「観光経営研究」での実習先としては、学生を送ることはできなかった。

民間の商店会連合会等が主催する祭事・イベントに

については、各商店自体の経営が厳しくなったことで中止を余儀なくされるケースが出ている。富士見市のつるせよさこい祭りは、鶴瀬西口商店会連合会が主催するイベントで、例年、経営学部2年生が実行委員会の企画・運営に参画してきたが、2年間連続で中止したことにより、地元の踊り子チームの参加者が集まらなくなり、チームが解散に追い込まれた。また、実行委員会が任意団体であるため、赤字が出た場合の負債を受け止める体力がなく、実行委員会は解散することとなった。鶴瀬駅西口の再開発も進み、踊り子チームが集合する空き地もなくなってきたことも、「よさこい」という大規模ダンス事業が難しくなった要因であった。

一方、行政が主催の大型イベントは、運営母体が財政的に安定しているため、イベント経営母体自体の解散の動きはない。

新型コロナウイルス感染症蔓延期に大学が主催した「淑徳大学コミュニティカレッジ」では、オンライン講座を試みた。大学周辺地域を越えて参加する受講者もいたが、この2年間不調であった。高齢者の受講希望生が多く、IT環境への対応は家族の支援無しには難しいことがうかがわれる。受講者のアンケートによると、「対面講座を復活してほしい」との声が散見された。

一方、オンライン講座を実施することにより、大学側の技術的対応力は格段に上がってきたと思われる。

### (1) 自治体との連携事業について

埼玉キャンパスでは、富士見市、三芳町、和光市と包括協定を締結している。富士見市とは、例年3月に次年度の連携事業の確認、4月には前年度の振り返りが大学側と市の総合政策部との間で行われている。2022年度においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりイベント系事業の多くが中止となったが、下記事業については、行政と調整を重ねて実施された。

教育学部と富士見市のフレンドシップ事業「子ども大学☆ふじみ」「子どもスポーツ大学☆ふじみ」「子ども文化芸術大学☆ふじみ」は、教育学部の学生、女子ソフトボール部が参画した。また、審議会・協議会関連では、何人もの教員が委員となっている。

三芳町では、連携事業を統括する部署はなく、活動内容に応じて大学関係部署と役場の担当部署にて、個

別にイベントやプロジェクトの連携事業を進めている。富士見同様に実施している「子ども大学みよし」は、対面で5回の講座が復活した。小学校の支援ボランティアについては、教員・保育士養成センターを通して学生派遣を行った。ただ、大規模催事に関しては、学生派遣はできなかった。

和光市とも包括協定を結んでいるが、本学に以前設置されていた「国際コミュニケーション学部」との連携を行っていた時代では、福祉関連のインターン先として学生も斡旋することも行われたが、現在の埼玉キャンパスには福祉系の学生がいないため、審議会への教員派遣にとどまっている。

### (2) 締結している自治体以外との自治体との連携事業

横瀬町および道の駅果樹公園あしがくぼとは連携事業を例年実施しており、現在はハイキング路の造成をするために、学生を手分けして踏破調査を行っている。この関連で国土交通省関東整備局主催の「道の駅と大学の連携事業」でも観光経営学科の岩村ゼミが調査報告の発表を例年行ってきたが、今年度は行われていない。

この他、新潟県阿賀町では、経営学部のインターシップを受け入れており、学生が地域の祭事の運営に参画している。

また、京都文教大学・埼玉工業大学との「ともいき」事業を通して、今年度は埼玉キャンパスから学生を2名、京丹後市へのスタディ・ツアーに参加させることができた。

### (3) 企業、経済団体、NPO団体等との産学官連携事業について

#### (1) 自治体と連携した活動

- ・横瀬町道の駅 \*経営学部と横瀬町および道の駅果樹公園あしがくぼとの連携事業。
- ・板橋区立エコポリスセンター：インターンシップ受け入れ
- ・富士見市で学生審議会委員、学生市民協議会委員への登録と会議への参加。

#### (2) 観光協会と連携した活動

- ・川越市観光協会：観光経営学科の学生視察受け入れ
- ・志賀高原観光協会：一般社団法人観光教育・インターンシップセンター：志賀高原オリンピックホテルにて企画段階からホテル実務に参画するPBL（課

題解決型学習) プログラムを実施。

(3) 企業、各種団体等と連携した活動

- ・石坂産業株式会社(三芳町): 経営学部正課科目「フィールドワーク」での学生受け入れ
- ・早川農園(三芳町): 三芳町「世界一のいも掘り大会」での学生ボランティア受け入れ
- ・東武グループ: 観光経営学科「観光経営研究」等での講師派遣、見学、実習先
- ・株式会社JTB川越支店、株式会社温泉道場、株式会社ズキ自販西埼玉、株式会社カトープレジャーグループ(宿泊系)、株式会社レック(プライダル系)
- 他: インターンシップ受け入れ
- ・NPO法人れでいばーど: 「三芳おなかま子ども食堂」での学生ボランティア受け入れ

(文責: 岩村沢也)

#### 4. 東京キャンパス

- 1) 自治体との包括連携については、板橋区との地域連携に関する基本協定等を締結している。板橋区との地域連携によって、板橋区との「認知症サポーター養成講座」の共同開催を行った(おとしより保健福祉センター)。
- 2) 板橋区の施設や関係部署と連携した授業の実施やボランティア活動、課外活動については、板橋区の各課(志村警察署 防犯係・教育委員会・生涯学習課)や板橋区内の公共施設(公文書館・郷土資料館・教育支援センター・中央図書館・美術館・教育科学館)や、公益財団法人(板橋区文化・国際交流財団)など多岐に渡り地域と交流し、地域の課題について自治体と連携した取組を行っている。
- 3) 連携協定等を締結している板橋区内の多くの団体との取組は、担当の先生方の尽力によって連携が継続されており、担当機関とのやり取りや学生周知の準備など、担当教員の負担が大きい点が課題である。ボランティアセンターの活用をより積極的に行うことで、こうした負担を減らし、学生利用の利便性を図ることが改善のために必要だと考える。
- 4) 東京キャンパスがある板橋区以外では、埼玉県八潮市学校教育指導體系や八潮市立資料館、また酒々井町との連携事業で、酒々井町浄土宗亀澤山清光寺の史料調査を行っている。

埼玉県八潮市学校教育指導體系「八潮こ

ども夢大学」の受け入れについては、2023年度以降は、東京キャンパスに新たな学部・学科が設置されることから、今後の担当する学部・学科と教員について協議を行う必要がある。

八潮市立資料館は、学芸員(博物館学)の資格取得を希望する学生のボランティア活動の受け入れがあるが、所在地が東京キャンパスから離れており、学生が活動する際の交通費の補助の拡充が求められる。

- 5) 本学短期大学の「共生論」で行われる共生体験プログラムのボランティア活動について、2023年度以降の取組の見通しが不明である点が課題である。長年の取組によって、地域の社会福祉に貢献している事業もあり、これまで本学短期大学部と連携してきた地域の団体との取組の今後について検討しなければならない点が課題である。「共生論」と共生体験プログラムのボランティア活動の事業の終了後は、板橋区のボランティア活動との連携を強化する対応を取ることで、地域の団体との活動を支援する方向で、今後の改善を期待したい。

#### (1) 自治体との連携事業について

##### 1) 板橋区と連携した活動

- ①板橋区公開講座「認知症サポーター養成講座」(板橋区おとしより保健福祉センター: 対面で実施)  
歴史学科の教職課程の学生の介護等体験の事前学習に位置づけられており、中学校免許取得を希望する学生が参加した他、興味をもつ学生や教職員が参加した。講座の内容は、webでも公開し、授業のため参加できない学生も視聴できるよう工夫した。区民については参加申込がなく、板橋区おとしより保健福祉センターと協議の上、区民参加への周知の工夫をしたい。
- ②学習支援ボランティア(板橋区教育委員会)  
板橋区教育委員会が、東京キャンパスに來校して学習支援員ボランティア制度について説明。東京キャンパスのボランティアセンターが説明会の開催について学生に周知した。当日、興味のある学生が説明を聞き、学習ボランティアに登録した。今後、教職課程を履修する学生が区教育委員会と連携して、学習支援ボランティアに登録した学生を、派遣を要請する小中学校に派遣して、学習支援を行う。
- ③SDGs未来都市プロジェクト

内閣府が推進している「SDGs未来都市」に選出さ

れた板橋区について、区役所や区の施設を表現学科の学生が取材し、情報発信する。

- 2) 板橋区の施設や関係部署と連携した授業の実施
- ①歴史学科「歴史調査実習Ⅰ」板橋区立郷土資料館、板橋区公文書館と連携した調査・実習・講義
  - ②歴史学科「日本地域史」板橋区立郷土資料館、板橋区公文書館での調査研究・報告書作成
  - ③歴史学科「歴史調査実習Ⅱ」フィールドワークの成果を八潮市立資料館でポスター展示
  - ④歴史学科「博物館教育論」「博物館実習」八潮市立資料館で教育普及活動に参加
  - ⑤表現学科「表現文化調査研究Ⅰ」公益財団法人板橋区文化・国際交流財団主催イベントでのアナウンス、運営協力等
  - ⑥表現学科「表現文化調査研究Ⅰ」志村警察署との連携 特殊詐欺防止キャンペーン

## (2) 締結している自治体以外との自治体との連携事業

- 1) 埼玉県八潮市「八潮子ども夢大学」(受託事業)  
八潮市教育委員会主催で2014年度から開催されている「八潮子ども夢大学」に2015年度より参加。八潮市の有志児童が大学を訪れ、学生や教員による体験学習や講義を受ける。
- 2) 埼玉県八潮市 八潮市立資料館(授業を通じた連携)  
「歴史調査実習Ⅱ」でのフィールドワークの成果を八潮市立資料館でポスター展示  
「博物館教育論」「博物館実習」では、学芸員(博物館学)の資格取得を希望する学生が、教育普及活動のボランティア活動を実施。
- 3) 千葉県酒々井町 浄土宗亀澤山清光寺の史料調査(受託研究)  
2019年度台風15号により建物に大きな損壊を蒙った清光寺の史資料の調査を計画。

## (3) 企業、経済団体、NPO団体等との産学官連携事業について

該当する事業・活動はとくになし。

(文責：鈴木織恵)

## Ⅲ. 受託事業

### 1. 千葉市子ども若者市役所



「千葉市子ども若者市役所」では、千葉市が取り組みを進めている子ども若者の社会参画事業の一環で、若者が自分たち自身の「社会的な影響力」を知り、自らが当事者となり、主体的に地域や社会の課題解決に取り組むことができる仕組みづくりを進めている。

2017年度から開始された本事業は、6年目を迎え、1年間の活動を通じて、延べ290名(12回のワークショップ、1回の夏休み子ども教室、1回の子どもメリクリカフェ、1回の千葉市子ども若者フォーラムの計15回の活動)が参加した。

2022年度は、例年と同様に、「ヨコ」と「タテ」のつながりづくりを意識しながら、活動を行った。「ヨコ」のつながりでは、ちば産学官連携プラットフォームに参画する千葉市内、市原市内にキャンパスを持つ大学・短大の学生同士の「つながり」を生み出すとともに、市内に在住・在学の高校生同士、高校生と大学生との「つながり」を生み出すことができた。異なる学校で学んでいる同年代の若者が集まり、交流することにより、新たな発見を得るとともに、異なる専門性を組み合わせることで新たな可能性が広がった。

また「タテ」のつながりでは、「夏休み子ども教室」、「子どもメリクリカフェ」、の対象を未就学児及び小学生を対象とし、高校生や大学生と未就学児や小学生との「つながり」が意識された。例年の取り組みを通じて、過去の企画に参加してくれた小学生が参加してくれるなど、常連となる参加者も生まれてくるなどの事例も生まれた。取り組みが定例化することにより、千葉市子ども若者市役所の取り組み自体が、小学生やその保護者にも浸透し始めていると考えられる。このことは、こうした機会に参加した小学生が、高校生になったときに、千葉市子ども若者市役所の取り組みの

参加メンバーとなってくれることで、この取り組みの社会参画に対する効果に結び付いてくるものと考えられる。

2022年度の主要テーマは、「大学等の施設を活用したこどもの居場所づくり」と「産学官連携での千葉市の魅力発信」、「千葉市の課題を解決するための提言をしよう！」であった。

### (1) 大学等の施設を活用した「こどもの居場所づくり」

8月17日に「夏休み子ども教室」、12月18日に「こどもメリクリカフェ」を開催した。

大学生や短大生、高校生が主体的に「こどもの居場所づくり」の活動を行う上で、継続的に行っていくための方法として、大学等の施設を活用することが考えられるため、こうした取り組みを通じて、その可能性を確認している。その理由として、大学生や短大生、高校生が地域に出るだけでなく、大学や短大、高校の施設を地域に開放することで、授業の空き時間や放課後等を活用して、担当者が交代・輪番をしながら、「こどもの居場所」を提供していくことができれば、継続性が担保されるのではないかと考えられるからである。

#### 夏休み子ども教室

夏休み子ども教室では、高校生や大学生が「先生」となって、小学生のこどもたちの夏休みの宿題に取り組んだり、一緒に遊んだりする「寺子屋」的な活動を実施した。「遊び」の内容や「ものづくり」の内容は、大学生・高校生が自ら考え、創意工夫を行った。

今年度の主な内容は、こどもたちの夏休みの宿題を一緒に行なったほか、縁日企画を実施し、スーパーボールすくいや、ヨーヨー釣り、輪投げ、割り箸鉄砲づくりを行った。昨年度との変更点は、「遊び」を縁日企画とし、室外で行ったが、こどもたちには好評だった。

#### 「夏休み子ども教室」

日時：2022年8月17日（水）13：00～16：00

会場：淑徳大学千葉キャンパス

参加者：小学生 計50名



ちば産学官連携プラットフォーム協働事業  
千葉県子ども若者市役所 (CCFC) プロジェクト企画

**夏 休 み 教 室**

開催日時 8月17日（水）13:00～16:00  
会場 淑徳大学 千葉キャンパス  
対象：小学生 定員：50名  
大学生・高校生のお兄さんやお姉さんと一緒に、勉強したり、遊んだりしよう！

夏休みの宿題をお助け！ 一緒に遊ぼう プチ夏祭り

夏休みの宿題をお手伝いします！  
また、自由研究などにも役立つ内容も一緒に勉強しよう。

勉強の後は、夏祭り気分、一緒に遊ぼう！

参加方法 8月10日（水）までに下記のWEBページよりお申込みください。  
お申込みいただいた方に、集合場所等の詳細を連絡します。  
定員になり次第、申し込みを締め切ります。  
<http://ccfc2017.net/summerschool22/>

お問い合わせ [info@ccfc2017.net](mailto:info@ccfc2017.net)までメールでお送りください。

※新型コロナウイルス感染症対策により、先着順にて受け付けます。定員が満員となった場合は、ご参加できませんので、ご了承ください。  
※新型コロナウイルスの状況により、内容を変更することや、やむを得ず中止にする場合がございます。  
※ご来場の際は、必ずマスクを装着し、発熱がある方、体調が悪い方は、ご参加をご遠慮ください。



#### こどもメリクリカフェ

「こどもメリクリカフェ」は、これまで千葉経済大学、淑徳大学、千葉明德短期大学と大学を会場として行ってきたが、今年度は公共施設を活用した取り組みを試みることを目的に、千葉市きぼ一層のアトリウムで開催した。昨年度とは異なり、会場の特性の問題が要因なのか、事前申し込み制にしたところ、当日の欠席者が多かった。一方で、空き定員枠で、当日のき

ぼーのの来場者が参加することができたが、事前申し込みで定員超過となり諦めてしまったこともたちがいることを考えると、大きな課題が残った。

### 「こどもメリクリカフェ」

日時：2021年12月18日（日）13：00～16：00

会場：淑徳大学

参加者：未就学児及び小学生 計70名

プログラム内容：

- ①ハーバリウムづくり
- ②お菓子のツリーづくり
- ③謎解きゲーム
- ④かそりーぬとちはなちゃんとの記念撮影



### (2) 参議院選挙における投票啓発活動

2022年7月の参議院選挙に合わせ、若年世代の投票率を向上させるために、SNSを活用した投票啓発活動を行った。具体的には、投票を済ませた方に、投票済証明書と一緒に撮影した写真と「投票行ったよ！」のメッセージを投稿してもらい、投票日当日に、「投票」に行く雰囲気醸成するとともに、投稿された写真を活用し、モザイクアートを制作し、今後の投票済証明書等への活用を提案するというものである。

モザイクアートのデザインは、参加者がワークショップを通じて検討し、投票済証明書とともに撮影した写真や子ども若者の未来へのメッセージボード写真を活用して作成した。



### 2. 一般社団法人全国スーパーマーケット協会「地域密着型スーパーマーケットの新たな競争戦略に関する共同研究」及び「スーパーマーケットGood Action Initiatives事業」

一般社団法人全国スーパーマーケット協会と淑徳大学との共同研究事業「スーパーマーケットの新たな競争戦略に関する研究」は、2022年度で5か年計画のうち4か年目を迎えた。本共同研究では、財務面と非財務面の両面から、スーパーマーケットの新たな競争戦略の方向性を見出すことを目的としている。2022年度においては、下記の4つのテーマについて研究活動を進めた。

- (1) 「食料品アクセス問題」に対するスーパーマーケットの事例調査
- (2) スーパーマーケット業における省エネ化に関する事例研究

(3) スーパーマーケット業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する事例研究

(4) コロナ禍及び物価高におけるスーパーマーケット業の経営環境に関する考察と財務データを通じた状況把握

上記のテーマに基づき、下記の通り、研究会を開催した。

日時：2022年7月27日（火）18時から20時

会場：Zoom

テーマ：スーパーマーケット業における省エネ化に関する事例研究

KEI Society 萩谷清隆氏・佐々島宏氏による報告とディスカッション

日時：2022年12月5日（月）18時～20時

会場：Zoom

テーマ：スーパーマーケット業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する事例研究

株式会社ニッコーのエクセルを活用したDX事例の報告とディスカッション

日時：2023年3月3日（金）18時30分～20時30分

会場：Zoom

テーマ：①「食料品アクセス問題」に対するスーパーマーケットの事例調査に関する報告  
淑徳大学矢尾板俊平教授による報告

②物価高におけるスーパーマーケット業の状況

一般社団法人スーパーマーケット協会  
長瀬直人主任研究員による報告

③ディスカッション

また、上記の研究会に加え、「食料品アクセス問題」に対するスーパーマーケットの事例調査に関して、9月21日（水）と12月1日（木）に、鹿児島県奄美市の株式会社グリーンストアの里綾子社長と意見交換を行った。9月21日（水）には、里社長に加え、安田壮平奄美市長ほか、奄美市役所職員との意見交換を行い、離島地域における買い物支援の在り方について

ディスカッションを行った。

日時：2022年9月21日（水）16：30～17：30

会場：Zoom

テーマ：株式会社グリーンストアにおける買い物支援の取り組みと公民連携の可能性について

日時：2022年12月1日（木）17：30～18：30

会場：Zoom

テーマ：株式会社グリーンストアにおける買い物支援の取り組み

今年度の研究活動の成果として「食料品アクセス問題」に焦点を当てた論考として、「地域創生とスーパーマーケットの新たな戦略—スーパーマーケットは、地域課題を解決する担い手になれるのか?—」を、「コロナ禍及び物価高におけるスーパーマーケット業の経営環境に関する考察と財務データを通じた状況把握」に焦点を当てた論考として、「スーパーマーケット企業の新たな競争戦略に関する論点：マクロとミクロの視点から」をそれぞれ執筆した。なお、「スーパーマーケット企業の新たな競争戦略に関する論点：マクロとミクロの視点から」については、研究会における「スーパーマーケット業における省エネ化に関する事例研究」と「スーパーマーケット業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する事例研究」で得た知見も踏まえて執筆している。

### スーパーマーケット Good Action Initiatives

主催：一般社団法人全国スーパーマーケット協会／淑徳大学地域連携センター

スーパーマーケット Good Action Initiatives 実行委員会  
委員長：矢尾板俊平（淑徳大学学長特別補佐、大学地域連携センター長、コミュニティ政策学部教授）  
副委員長・総合プロデューサー：中川直洋（弥蔵舎株式会社代表取締役）

委員・デザイナー：浅井由剛（株式会社カラーコード代表取締役、京都芸術大学准教授）

委員：長瀬直人（一般社団法人全国スーパーマーケット協会）

委員：初山朋輝（一般社団法人全国スーパーマーケット協会）

委員：山本直史（株式会社エコリング代表取締役）  
事務局：大城百花

#### 発表事例

株式会社渥美フーズ  
株式会社共栄商事 ポルカ食品館  
株式会社とりせん  
株式会社ウジエスーパー

#### スーパーマーケット Good Action Initiatives 2023

日時：2023年2月15日（水）11：40～13：10

場所：幕張メッセ（千葉県千葉市美浜区中瀬2-1）

主催：スーパーマーケット Good Action Initiatives 実行委員会

運営：淑徳大学地域連携センター、弥蔵舎株式会社、株式会社カラーコード

協力：一般社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト、ちば産学官連携プラットフォーム

目的：スーパーマーケット Good Action Initiatives をスーパーマーケット版SDGsと位置付け、スーパーマーケットは、地元には欠かせない『地域の「社会のインフラ」』であることを顧客に再認識してもらうため、各社が取り組んでいる「お店作り」や「地域貢献・社会貢献」等の取り組みの事例を発表し、パネルディスカッションにおいて、その価値を深掘りし、発信すること。

プログラム内容：4社のスーパーマーケットの取組事例を発表後、パネルディスカッションで、その取組事例を深掘りし、その社会的価値や意義を社会に発信した。

（パネリスト）

ファシリテーター：矢尾板俊平（淑徳大学 学長特別補佐 コミュニティ政策学部教授）

パネリスト：一般社団法人全国スーパーマーケット協会副会長 増井徳太郎

パネリスト：株式会社渥美フーズ 代表取締役 渡会一仁

パネリスト：一般社団法人日本シングルマザー支援協会代表 江成道子

来賓：※動画でのご出演 石川県副知事 西垣敦子

進行：スーパーマーケット Good Action Initiatives 事務局 大城百花

### 3. 千葉市町内自治会ワークショップ

#### 1. 開催目的

持続可能な地域コミュニティ実現のため、特に、若者目線での課題検討と課題解決に向け、若者の社会参加・地域参加のすそ野を広げるべく、町内自治会の会員や未加入者などで、立場や年齢、ライフスタイルの異なる市民から広く意見を聴取し、地域活動の継続、活性化を図ることを目的とする。

#### 2. 事業概要

持続可能な地域コミュニティの実現のため、ワークショップ参加者がそれぞれの視点から地域活動の課題や参加できる条件などの意見交換をし、地域課題の洗い出しや地域課題解決のための方策を具体化するワークショップを実施する。

#### 3. 内容

##### （1）事前勉強会

地域活動を持続するためにはどうすればよいか、地域をより良くするためにはどうすればよいか、ワークショップを実施するにあたり、事前勉強会を実施し、参加者の皆さんと課題の認識・共有を図った。

日時：2022年10月8日（土）10時～12時

会場：淑徳大学千葉キャンパス

参加：28名（20代1名、30代4名、40代9名、50代11名、60代以上3名）

内容

- ・あいさつ（市民自治推進課長）
- ・町内自治会についての説明（市民自治推進課）
- ・ワークショップに向けた課題共有と整理（淑徳大学 矢尾板俊平教授）
- ・論点整理・ディスカッション（ファシリテーター：淑徳大学矢尾板俊平教授）

##### （2）第1回町内自治会ワークショップ

事前勉強会を振り返り、課題テーマを6つに設定し、6つの班に分かれてそれぞれの課題について意見

を出し合い、班ごと発表を行った。

日時：2022年11月12日（土）10時～12時30分

会場：淑徳大学千葉キャンパス

参加者：24名（20代1名、30代1名、40代6名、50代12名、60代以上3名、不明1名）

内容

- ・事前勉強会の振り返り及びグループの設定についての説明
- ・グループに分かれての討議（淑徳大学矢尾板俊平教授）
- ・グループでの討議内容の発表・共有（進行：淑徳大学矢尾板俊平教授）

### （3）勉強会（インタビュー）

第2回ワークショップへ向け、地域で、町内自治会をはじめ様々な団体と連携・協力体制を築いている松ヶ丘中学校区町内自治会連絡協議会会長の石川様をゲストにお招きし、Zoom交流会を実施した。

日時：2022年12月10日（土）10時～12時30分

会場：Zoom開催

参加者：5名（40代3名、50代2名）

内容

松ヶ丘中学校区町内自治会連絡協議会会長石川和利氏へのインタビュー

### （4）第2回町内自治会ワークショップ

第1回ワークショップで討議した各班の課題について、提案についてディスカッションし、発表した。

日時：2023年2月11日（土）10時～12時30分

会場：淑徳大学千葉キャンパス

参加者：14名（30代2名、40代6名、50代6名）

内容

- ・グループに分かれての討論
- ・グループごとの発表・意見交換（進行：市東真一淑徳大学地域創生学部開設準備室）
- ・提案のまとめ（淑徳大学矢尾板俊平教授）
- ・御礼の挨拶（市民自治推進課長）

## 2021年度 淑徳大学と千葉市との連携事業の整理

	新規 継続	取組内容	担当課	担当／連絡先	備考
1	継続	【中央区のまちづくりに関する協働・参画】 中央区におけるまちづくりや地域の課題解決、地域活性化の取組において、協働・協創を進める。特に、中央区内の地域運営委員会の活動を支援するため、淑徳大学が有する資源（人的資源、学術研究の成果）を活用しながら、地域・行政・大学の連携を通じた地域マネジメントモデルの構築を進める。	中央区地域振興課 市民自治推進課	大学地域連携センター 長 矢尾板 千葉キャンパス地域連携室 松崎・大友	
2	継続	【パラスポーツ講座・交流会の開催など共生社会の実現に向けた取組】 今後、共生社会の実現を目指し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、これまでスポーツに親しむ機会の少ない障害者のスポーツへの参加機会の拡大や、互いの理解を深めるために障害のある人もない人もともにスポーツに親しむ機会の創出、競技普及の担い手育成などについて、さらなる連携を図る。	オリンピック・パラリンピック推進課	コミュニティ政策学部 准教授 本多 コミュニティ政策学部 助教 伊藤 千葉キャンパス学事部 地域連携室	
3	継続	【介護人材の確保・定着の促進】 今後想定される介護人材の不足を補うため、介護ロボットの普及や外国人人材の活用など様々な施策を推進することとしている。そこで、これらの施策についての普及啓発として、淑徳大学の有する介護分野に関する豊かな知見を活用し、大学講師による先進的な取組に関する講演をはじめ、介護人材の確保・定着に向けた連携を進める。	介護保険管理課	総合福祉学部 教授 藤野 大学地域連携センター 成田	
4	継続	【子ども若者市役所受託事業】 当該事業は、2016年6月に行われた「こども・若者選挙」により、市内の高校生に選ばれた施策であり、こども・若者の意見が市政に反映され、こども・若者が主体的に活動するための組織として、小学生から大学生くらいまでのこども・若者が参加する「こども・若者市役所（CCFC）」の運営を行うことを目的として実施する。	こども企画課	大学地域連携センター 長 矢尾板 大学地域連携センター・ 千葉キャンパス学事部 地域連携室	
5	新規	【千葉市 大学連携共同研究事業】 本研究では、千葉県立生浜高等学校と連携し、「校内居場所カフェ」モデルの構築を目指し、アンケート調査の実施や実証実験を行うことにより、そのプログラムづくりを通じて、市内の高校に通学する高校生への福祉的支援の可能性を明らかにすることを目的とする。	政策調整課	大学地域連携センター 長 矢尾板 大学地域連携センター・ 千葉キャンパス学事部 地域連携室	
6	継続	【小学校等における主権者教育・投票啓発活動】 千葉市選挙管理委員会が取組む小学校等における主権者教育で行われている「模擬投票」に協力するとともに、投票率の向上を目指した投票啓発活動を協働する。	選挙管理委員会	大学地域連携センター 長 矢尾板	
7	継続	【市内フィールドワークの実施】 大正大学と連携して企画される千葉市役所の施策に関する講義の実施や市内でのフィールドワークの実施にご協力をいただく。	政策調整課	大学地域連携センター 長 矢尾板 コミュニティ政策学部・ 大学地域連携センター	
8	継続	【リカレント教育事業】 千葉市のリカレント教育事業推進のため、教育コンテンツや公開講座のプログラム作りにおいて連携する。 ※2020年度は、ちば産学官連携プラットフォームとも連携し、3コースを調整・制作。	政策調整課	大学地域連携センター 長 矢尾板 千葉キャンパス学事部 地域連携室 大友	
9	継続	【千葉市 文化振興課】 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に際して、千葉市内の拠点（会場となる海浜幕張エリア、千葉市美術館がある千葉駅エリア、淑徳大学がある蘇我エリア）を有機的に結びつけ、回遊性を高め、国内外からの訪問客に、千葉での滞在を楽しんでもらうとともに、淑徳大学や大巖寺が持つ学術資源、文化資源等を公開・開放し、世界に「利他共生の精神」を発信する。	文化振興課	大学地域連携センター 長 矢尾板 大学地域連携センター 成田	

	新規 継続	取組内容	担当課	担当/連絡先	備考
10	継続	【千葉市 都市総務課・UR】 千葉市では、市人口のうち約3人に1人が住宅団地に居住しているというデータがあり、しかもそのうち大部分は40～50年前に整備された大規模団地で、施設の老朽化や住民の高齢化が顕著となっている。そこで、現在、そのような住宅団地に若年世代が居住することで、多世代交流を生み出し、活性化に資する取組ができないかと検討している。そのひとつのアイデアとして、近隣の大学生が団地に居住し、地域活動に参画する中で、若年世代が住みよい環境を創り出すことができないかを検討する。	住宅総務課	大学地域連携センター 長 矢尾板 大学地域連携センター 成田	
11	継続	【看護・介護・福祉分野等における新製品開発の促進】 今後、高齢化の進展に伴い需要が増大することが想定される看護・介護・福祉分野で活用される機器は、ハンドメイドで製品化されるものから、最新のロボット技術を活用し上市されるものまで多様に渡る。地域経済活性化のため、ユーザー目線に立って、この分野に参入しようとする開発メーカーに対し、看護・介護・福祉に総合的な知見を持つ淑徳大学が助言等を行うことで、開発期間の短縮化や、製品の利便性向上を狙い、淑徳大学と市及び財団で連携を進める。	産業支援課	総合福祉学部 教授 藤野 地域連携センター 成田	
12	継続	【食品関連事業者と連携した新商品の開発】 千葉市内及び近隣地域では、様々な農林水産物が生産されており、地域経済活性化と地産地消の推進のため、これらの地場産品を活用して食品開発を進める事業者と、栄養学の権威である淑徳大学の連携による新しい食品、新しいメニューの創造を狙い、淑徳大学と市で連携を進める。	産業支援課	看護栄養学部事務部長 櫻井	
13	継続 (今年度 中止)	【千葉の親子三代夏祭りにおける学生ボランティア】 2015年度から、学生ボランティアが千葉の親子三代夏祭りの各種イベントの運営補助に携わっている。 2018年度からは、夏祭り当日のボランティアだけではなく、企画段階から継続的に夏祭りの運営への参画を検討している。	市民自治推進課	千葉ボランティアセンター 松崎	
14	継続	【生活困窮世帯等に属する中学2年生及び3年生に対する学習支援】 2011年度から千葉市教諭OBや学生ボランティアの協力のもとに生活困窮世帯等を対象に、生活困窮者自立支援法に基づき、高校進学に必要な基礎学力をつけること等を目的として無料の学習支援事業を行っている。 同事業の申込者数は、事業開始から大幅に増加しており、また、きめ細かい学習支援を行うためには学生ボランティアによる更なる協力が必要であるため、ボランティアの派遣協力を求める。	保健福祉局保護課	千葉ボランティアセンター 松崎	
15	継続	【妊孕性についての周知】 若い世代がライフデザインと健康を考える際の一貫として、妊孕性について正しい知識の周知への協力をお願いします。 1) 在学生に対する講演会を実施する場の提供 2) 成人式に配付している妊孕性周知のためのリーフレットを見直すための意見聴取 ※妊孕性(にんようせい)とは：妊娠のしやすさのこと。加齢とともに低下するとされている。	健康支援課	看護栄養学部事務部長	
16	継続	【事業所内保育事業又は企業主導型保育の設置、運営】 組織の人材確保やダイバーシティー、ワークライフバランスの推進モデルとして、保育士養成校としての資源を活かし、事業所内保育事業又は企業主導型保育を学内又は隣地に設置していただくとともに、地域枠の設定により待機児童解消を促進していただく。本市からは、事業所内保育事業の設置、運営に助成するとともに、各区において、市民に対して地域枠のあっせん、紹介を行い、事業運営を支援する。	幼保支援課	中長期の案件の為保留	
17	継続	【企業向け研修の開発及び企業への周知方法検討】 2016年度から市内の中小企業の人材育成を図り、もって市の産業の振興に寄与することを目的として、中小企業者の経営者又はその従業員が業務に必要な技術、技能又は知識の習得を図るために必要な各種研修制度を利用した市内の中小企業者に対し、その経費の一部を補助する「千葉市中小企業研修費補助金事業」を開始した。補助対象となる研修の一つとして、「市内大学が実施する企業を対象とした在職者向け研修」を挙げていることから、企業向けの研修を開発していただき、市内中小企業の利用を促進したい。また、企業への周知方法にも学生のアイデアを活用したい。(チラシのデザイン作成など)	経済企画課 雇用推進室	大学地域連携センター 長 矢尾板 大学地域連携センター 成田	

	新規 継続	取組内容	担当課	担当/連絡先	備考
18	継続	【「緑と水辺の基金」事業における連携】 寄附付自販機の設置・基金パンフレット等広報物の配布など、基金の募金・広報活動においてできる範囲での連携をお願いする。(「ちよいサボ宣言」「募金箱デコリ隊」)	緑政課	千葉ボランティアセンター 松崎	
19	継続	【美浜ステイ・プロジェクト事業】 2016年度に設立した区職員有志と敬愛大学ボランティアサークルIrisによるMMMPT(みんなで・みはまを・もりあげようプロジェクトチーム)実行委員会を主軸として、地域活性化に関心を持つ地域の団体(学生・企業等)を巻き込みながら、各種イベントを企画立案・実施し、美浜区のブランド力向上を目指しており、本事業への参加をお願いする。 (2016年度実績) 自主研修グループでの活動として、12月にイルミネーション点灯・アカペラコンサートを開催し、学生にはポスター作成・近隣店舗への協賛金依頼・当日の運営業務等に携わってもらった。 (2017年度予定) 今年度より予算を確保し正式に事業として立ち上げ。引き続き、地域活性化に関心を持つ地域の団体に様々な形の協力を仰ぎながら、企画を立案・実施していく。 《4月時点実施予定(案)》①浜辺PRイベント(稲毛海浜公園・展示企画と飲食ブース出店・10月下旬～11月上旬)②若者まちづくりワークショップ(区内高校、大学生を対象・地域活性化施策の検討をテーマ・12月頃)③イルミ浜・アカペラコンサート(高洲コミュニティセンター・イルミネーション点灯・11月下旬～12月末)④美浜PR動画(大学生との協働により外国人観光客を対象としたPR動画制作・時期未定) 他	美浜区地域振興課	千葉ボランティアセンター 松崎	
20	継続	【スクールソーシャルワーカーの受け入れ】 SSWの職務について学ぶ場を提供するとともに、本市学校教育を担う育成に当たるため、福祉関係について学ぶ学生のスクールソーシャルワーク実習を、教育支援課及び教育センターや養護教育センターにおいて受け入れている。	教育支援課	千葉キャンパス学事部 教育実習センター	
21	継続	【養護教育センターが実施するサポート活動への学生ボランティア参加】 大学を通じて、養護教育センターのグループ活動や学校生活サポート事業の学生ボランティアを募集している。 長柄ハッピーキャンプの宿泊体験行事にも学生ボランティアが同行している。	養護教育センター	千葉ボランティアセンター 松崎	
22	継続	少子高齢化の社会背景から、乳幼児に触れ合う機会が少ないまま母親になり、育児に関する不安を抱く方が多いといわれている。看護栄養学部看護学科では、地域貢献の一環として、妊婦さんとそのご家族を対象に、2017年1月から月1回、沐浴教室の開催を始めている。沐浴教室では、赤ちゃんの抱っこや沐浴の方法について教員が説明をした後、実際に抱っこや沐浴の体験を行う。学生もボランティアとして参加し、自分が学んだ知識と技術を提供しながら、参加者と楽しくコミュニケーションを図る機会とする。2016年度以降は月1～2回のペースで継続して開催予定。	健康支援課 中央保健福祉センター健康課	看護栄養学部看護学科 河野 洋子	

## 2022年度 淑徳大学と千葉市との連携事業の整理

2023年3月1日現在

	新規 継続	取組内容	担当課	担当/連絡先	備考
1	継続	【中央区のまちづくりに関する協働・参画】 中央区におけるまちづくりや地域の課題解決、地域活性化の取組において、協働・協創を進める。特に、中央区内の地域運営委員会の活動を支援するため、淑徳大学が有する資源(人的資源、学術研究の成果)を活用しながら、地域・行政・大学の連携を通じた地域マネジメントモデルの構築を進める。 2022年度：蘇我中学校区における、月2回のふれあい食事サービスの実施。中央区ふるさと祭り実行委員会への参画。	中央区地域振興課 市民自治推進課	コミュニティ政策学部 教授 矢尾板 千葉キャンパス地域連携室 松崎・大久保	

	新規 継続	取組内容	担当課	担当/連絡先	備考
2	継続	【バラスポーツ講座・交流会の開催など共生社会の実現に向けた取組】 今後、共生社会の実現を目指し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、これまでスポーツに親しむ機会の少ない障害者のスポーツへの参加機会の拡大や、互いの理解を深めるために障害のある人もない人もともにスポーツに親しむ機会の創出、競技普及の担い手育成などについて、さらなる連携を図る。「長谷川良信記念・千葉市長杯争奪車いすバスケットボール全国選抜大会」「バラスポーツフェスタ」	オリンピック・パラリンピック推進課	コミュニティ政策学部 准教授 本多 コミュニティ政策学部 助教 伊藤 千葉キャンパス学事部 地域連携室	
3	継続	【介護人材の確保・定着の促進】 今後想定される介護人材の不足を補うため、介護ロボットの普及や外国人材の活用など様々な施策を推進することとしている。そこで、これらの施策についての普及啓発として、淑徳大学の有する介護分野に関する豊かな知見を活用し、大学講師による先進的な取組に関する講演をはじめ、介護人材の確保・定着に向けた連携を進める。	介護保険管理課	総合福祉学部 教授 藤野 大学地域連携センター 成田	
4	継続	【子ども若者市役所受託事業】 当該事業は、2016年6月に行われた「こども・若者選挙」により、市内の高校生に選ばれた施策であり、こども・若者の意見が市政に反映され、こども・若者が主体的に活動するための組織として、小学生から大学生くらいまでのこども・若者が参加する「こども・若者市役所（CCFC）」の運営を行うことを目的として実施する。	こども企画課	コミュニティ政策学部 教授 矢尾板	
5	新規	【千葉市 大学連携共同研究事業】 本研究では、千葉県立生涯高等学校と連携し、「校内居場所カフェ」モデルの構築を目指し、アンケート調査の実施や実証実験を行うことにより、そのプログラムづくりを通じて、市内の高校に通学する高校生への福祉の支援の可能性を明らかにすることを目的とする。	政策調整課	コミュニティ政策学部 教授 矢尾板 千葉キャンパス地域連携室	
6	継続	【小学校等における主権者教育・投票啓発活動】 千葉市選挙管理委員会が取組む小学校等における主権者教育で行われている「模擬投票」に協力するとともに、投票率の向上を目指した投票啓発活動を協働する。	選挙管理委員会	コミュニティ政策学部 教授 矢尾板	
7	継続	【市内フィールドワークの実施】 大正大学と連携して企画される千葉市役所の施策に関する講義の実施や市内でのフィールドワークの実施にご協力をいただく。	政策調整課	コミュニティ政策学部 教授 矢尾板	
8	継続	【リカレント教育事業】 千葉市のリカレント教育事業を推進のため、教育コンテンツや公開講座のプログラム作りにおいて連携する。 ※2022年度は、ちば産学官連携プラットフォームにて開講された、「ビジネス英語」「プログラミング入門」のWEB講義プログラムの紹介ページを、千葉市webサイトに掲載。	政策調整課	コミュニティ政策学部 教授 矢尾板 千葉キャンパス地域連携室 大久保	
9	継続	【千葉市 文化振興課】 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に際して、千葉市内の拠点（会場となる海浜幕張エリア、千葉市美術館がある千葉駅エリア、淑徳大学がある蘇我エリア）を有機的に結びつけ、回遊性を高め、国内外からの訪問客に、千葉での滞在を楽しんでもらうとともに、淑徳大学や大巖寺が持つ学術資源、文化資源等を公開・開放し、世界に「利他共生の精神」を発信する。	文化振興課	大学地域連携センター 長 矢尾板 大学地域連携センター 成田	
10	継続	【千葉市 都市総務課・UR】 千葉市では、市人口のうち約3人に1人が住宅団地に居住しているというデータがあり、しかもそのうち大部分は40～50年前に整備された大規模団地で、施設の老朽化や住民の高齢化が顕著となっている。そこで、現在、そのような住宅団地に若年世代が居住することで、多世代交流を生み出し、活性化に資する取組ができないかと検討している。そのひとつのアイデアとして、近隣の大学生が団地に居住し、地域活動に参画する中で、若年世代が住みよい環境を創り出すことができないかを検討する。	住宅総務課	コミュニティ政策学部 教授 矢尾板	

	新規 継続	取組内容	担当課	担当/連絡先	備考
11	継続	【看護・介護・福祉分野等における新製品開発の促進】 今後、高齢化の進展に伴い需要が増大することが想定される看護・介護・福祉分野で活用される機器は、ハンドメイドで製品化されるものから、最新のロボット技術を活用し上市されるものまで多様に渡る。地域経済活性化のため、ユーザー目線に立って、この分野に参入しようとする開発メーカーに対し、看護・介護・福祉に総合的な知見を持つ淑徳大学が助言等を行うことで、開発期間の短縮化や、製品の利便性向上を狙い、淑徳大学と市及び財団で連携を進める。	産業支援課	総合福祉学部 教授 藤野	
12	継続	【食品関連事業者と連携した新商品の開発】 千葉市内及び近隣地域では、様々な農林水産物が生産されており、地域経済活性化と地産地消の推進のため、これらの地場産品を活用して食品開発を進める事業者と、栄養学の権威である淑徳大学の連携による新しい食品、新しいメニューの創造を狙い、淑徳大学と市で連携を進める。	産業支援課	看護栄養学部事務部長 櫻井	
13	継続 (今年度 中止)	【千葉の親子三代夏祭りにおける学生ボランティア】 2015年度から、学生ボランティアが千葉の親子三代夏祭りの各種イベントの運営補助に携わっている。 2018年度からは、夏祭り当日のボランティアだけではなく、企画段階から継続的に夏祭りの運営への参画を検討している。	市民自治推進課	千葉キャンパス地域連 携室 松崎	
14	継続	【生活困窮世帯等に属する中学2年生及び3年生に対する学習支援】 2011年度から千葉市教諭OBや学生ボランティアの協力のもとに生活困窮世帯等を対象に、生活困窮者自立支援法に基づき、高校進学に必要な基礎学力をつけること等を目的として無料の学習支援事業を行っている。 同事業の申込者数は、事業開始から大幅に増加しており、また、きめ細かい学習支援を行うためには学生ボランティアによる更なる協力が必要であるため、ボランティアの派遣協力を求める。	保健福祉局保護課	千葉キャンパス地域連 携室 松崎	
15	継続	【妊孕性についての周知】 若い世代がライフデザインと健康を考える際の一貫として、妊孕性について正しい知識の周知への協力をお願いする。 1) 在学生に対する講演会を実施する場の提供 2) 成人式に配付している妊孕性周知のためのリーフレットを見直すための意見聴取 ※妊孕性（にんようせい）とは：妊娠のしやすさのこと。加齢とともに低下するとされている。	健康支援課	看護栄養学部事務部長 櫻井	
16	継続	【事業所内保育事業又は企業主導型保育の設置、運営】 組織の人材確保やダイバーシティー、ワークライフバランスの推進モデルとして、保育士養成校としての資源を活かし、事業所内保育事業又は企業主導型保育を学内又は隣地に設置していただくとともに、地域枠の設定により待機児童解消を促進していただく。本市からは、事業所内保育事業の設置、運営に助成するとともに、各区において、市民に対して地域枠のあっせん、紹介を行い、事業運営を支援する。	幼保支援課	中長期の案件の為保留	
17	継続	【企業向け研修の開発及び企業への周知方法検討】 2016年度から市内の中小企業の人材育成を図り、もって市の産業の振興に寄与することを目的として、中小企業者の経営者又はその従業員が業務に必要な技術、技能又は知識の習得を図るために必要な各種研修制度を利用した市内の中小企業者に対し、その経費の一部を補助する「千葉市中小企業研修費補助金事業」を開始した。補助対象となる研修の一つとして、「市内大学が実施する企業を対象とした在職者向け研修」を挙げていることから、企業向けの研修を開発していただき、市内中小企業の利用を促進したい。また、企業への周知方法にも学生のアイデアを活用したい。（チラシのデザイン作成など）	経済企画課 雇用推進室	コミュニティ政策学部 教授 矢尾板	
18	継続	【「緑と水辺の基金」事業における連携】 寄附付自販機の設置・基金パンフレット等広報物の配布など、基金の募金・広報活動においてできる範囲での連携をお願いする。（「ちよいサボ宣言」「募金箱アコリ隊」）	緑政課	千葉キャンパス地域連 携室 松崎	

	新規 継続	取組内容	担当課	担当/連絡先	備考
19	継続	<p>【美浜ステイ・プロジェクト事業】</p> <p>2016年度に設立した区職員有志と敬愛大学ボランティアサークルIrisによるMMMPT（みんなで・みはまを・もりあげようプロジェクトチーム）実行委員会を主軸として、地域活性化に関心を持つ地域の団体（学生・企業等）を巻き込みながら、各種イベントを企画立案・実施し、美浜区のブランド力向上を目指しており、本事業への参加をお願いする。</p> <p>(2016年度実績)</p> <p>自主研修グループでの活動として、12月にイルミネーション点灯・アカペラコンサートを開催し、学生にはポスター作成・近隣店舗への協賛金依頼・当日の運営業務等に携わってもらった。</p> <p>(2017年度)</p> <p>今年度より予算を確保し正式に事業として立ち上げ。引き続き、地域活性化に関心を持つ地域の団体に様々な形での協力を仰ぎながら、企画を立案・実施していく。</p> <p>《4月時点実施予定(案)》①浜辺PRイベント（稲毛海浜公園・展示企画と飲食ブース出店・10月下旬～11月上旬）②若者まちづくりワークショップ（区内高校、大学生を対象・地域活性化施策の検討をテーマ・12月頃）③イルミ浜・アカペラコンサート（高洲コミュニティセンター・イルミネーション点灯・11月下旬～12月末）④美浜PR動画（大学生との協働により外国人観光客を対象としたPR動画制作・時期未定）他</p>	美浜区地域振興課	地域支援ボランティアセンター千葉 松崎・大久保	
20	継続	<p>【スクールソーシャルワーカーの受け入れ】</p> <p>SSWの職務について学ぶ場を提供するとともに、本市学校教育を担う育成に当たるため、福祉関係について学ぶ学生のスクールソーシャルワーク実習を、教育支援課及び教育センターや養護教育センターにおいて受け入れている。</p>	教育支援課	千葉キャンパス学事部 教育実習センター	
21	継続	<p>【養護教育センターが実施するサポート活動への学生ボランティア参加】</p> <p>大学を通じて、養護教育センターのグループ活動や学校生活サポート事業の学生ボランティアを募集している。</p> <p>長柄ハッピーキャンプの宿泊体験行事にも学生ボランティアが同行している。</p>	養護教育センター	千葉キャンパス地域連携室 松崎	
22	継続	<p>少子高齢化の社会背景から、乳幼児に触れ合う機会が少ないまま母親になり、育児に関する不安を抱く方が多いといわれている。看護栄養学部看護学科では、地域貢献の一環として、妊婦さんとそのご家族を対象に、2017年1月から月1回、沐浴教室の開催を始めている。沐浴教室では、赤ちゃんの抱っこや沐浴の方法について教員が説明をした後、実際に抱っこや沐浴の体験を行う。学生もボランティアとして参加し、自分が学んだ知識と技術を提供しながら、参加者と楽しくコミュニケーションを図る機会とする。2016年度以降は月1～2回のペースで継続して開催予定。</p>	健康支援課 中央保健福祉センター健康課	看護栄養学部看護学科 河野 洋子	

## 2021年度 淑徳大学（各キャンパス）と酒々井町との連携事業の整理

2022年11月30日現在

	新規 継続	取組内容	担当課	担当/連絡先
1	継続	まちづくり活動の取組や町の魅力について、町民や若い目線で新たに情報発信していくことを目的として発行している「広報ニュー しすいYoung Eyes」の編集委員として、学生が参画している。(2017年度～)	企画財政課 広報公聴班 岡田様	経営学部 経営学科 千葉先生
2	継続	酒々井町文化財基本調査「清光寺」史料調査 酒々井町浄土宗亀澤山清光寺は徳川幕府所縁の浄土宗寺院であり、本尊は県指定文化財となっている。しかしながら文献調査をはじめ資料調査を実施していないままであった。2019年度台風15号により建物に大きな損壊を蒙ったため破却する予定となったため、史資料が散逸する恐れがあり、同寺の史資料について調査を行うこととする。	企画財政課 企画・地方創生推進室 アドバイザー 木内様	人文学部 歴史学科 田中先生
3	継続	酒々井・千葉市まつり 学生のイベント参加。誘客に向けた改善等報告。	企画財政課 大谷様	淑徳大学地域連携センター 成田

	新規 継続	取組内容	担当課	担当／連絡先
4	新規	酒々井町観光実態調査 調査方法については、酒々井町と協議中。	経済環境課 商工観光班 主査 若松様	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 矢尾板先生

## 2022年度 淑徳大学（各キャンパス）と酒々井町との連携事業の整理

	新規 継続	取組内容	担当課	担当／連絡先
1	継続	まちづくり活動の取組や町の魅力について、町民や若い目線で新たに情報発信していくことを目的として発行している「広報ニューしすいYong Eyesの」の編集委員として、学生が参画している。(2019年度～)	企画財政課 広報公聴班 岡田様	経営学部 経営学科 千葉先生
2	継続	酒々井町文化財基本調査「清光寺」史料調査 酒々井町浄土宗亀澤山清光寺は徳川幕府所縁の浄土宗寺院であり、本尊は県指定文化財となっている。しかしながら文献調査をはじめ資料調査を実施していないままであった。2019年度台風15号により建物に大きな損壊を蒙ったため破却する予定となったため、史資料が散逸する恐れがあり、同寺の史資料について調査を行うこととする。 2022年度においては、同寺の史料のうち、襖下張文書となっていた断簡史料の継ぎあわせおよび同一史料の同定作業を行った。この過程で江戸時代中期の「什物帳」を復元することができた。	企画財政課 企画・地方創生推進室 アドバイザー 木内様	人文学部 歴史学科 田中先生
3	継続	酒々井・千葉市まつり 学生のイベント参加。誘客に向けた改善等報告。	企画財政課 大谷様	淑徳大学地域連携センター 成田
4	新規	酒々井町観光実態調査 調査方法については、酒々井町と協議中。	経済環境課 商工観光班 主査 若松様	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 矢尾板先生

## 2021年度 淑徳大学（千葉第二キャンパス）と自治体との連携事業の整理

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）

	新規 継続	取組内容	担当課	担当／連絡先
1	継続	【千葉市食育&消費者教育情報誌「おいしくタベル たのしくマナブ」の作成協力】 小学生を対象とした食育や消費者教育のための千葉市の情報誌について、2021年度も前年度と同様に学生とともに作成に協力した。情報誌は地内の小学校全校に配布され、子どもだけでなく、子どもを通して保護者への食育、消費者教育を行うことを目的としている。配布のみとした小学校は27%ほどで、7割以上は授業や読み物として活用されていた。	千葉市保健福祉局 健康福祉部 健康推進課	看護栄養学部 栄養学科 海老原
2	継続	【茨城県常総市 介護予防・日常生活支援総合事業評価】 茨城県常総市は、2009年度より、地域での主体的な介護予防活動を担う「介護予防リーダー」養成への取組を開始した。介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業のサポートを行うとともに、2009年度からの継続した追跡調査により事業評価を行い、介護予防に向けた持続可能な当事者共創社会の構築をめざす。	茨城県常総市 高齢福祉課	看護栄養学部 渡邊

## 2022年度 淑徳大学（千葉第二キャンパス）と自治体との連携事業の整理

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）

	新規 継続	取組内容	担当課	担当／連絡先
1	継続	【千葉市食育&消費者教育情報誌「おいしくタベル たのしくマナブ」の作成協力】 小学生を対象とした食育や消費者教育のための千葉市の情報誌について、2021年度も前年度と同様に学生とともに作成に協力した。情報誌は地内の小学校全校に配布され、子どもだけでなく、子どもを通して保護者への食育、消費者教育を行うことを目的としている。配布のみとした小学校は27%ほどで、7割以上は授業や読み物として活用されていた。	千葉市保健福祉局 健康福祉部 健康推進課	看護栄養学部 栄養学科 海老原
2	継続	【茨城県常総市 介護予防・日常生活支援総合事業評価】 茨城県常総市は、2009年度より、地域での主体的な介護予防活動を担う「介護予防リーダー」養成への取組を開始した。介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業のサポートを行うとともに、2009年度からの継続した追跡調査により事業評価を行い、介護予防に向けた持続可能な当事者共創社会の構築をめざす。	茨城県常総市 高齢福祉課	看護栄養学部 渡邊

## 2021年度 淑徳大学（埼玉キャンパス）と自治体との連携事業の整理

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）

	新規 継続	取組内容	担当課	担当／連絡先
1	継続	【子ども大学☆ふじみ】 地域や市民活動団体等との連携のもと、その教育資源を活用しながら子どもの知的好奇心を育み、自ら学び考える子どもの育成に寄与することを目的として、年6回程度の講義を実施。教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、富士見市内の施設にて人数制限を設けるなど感染拡大防止対策を徹底して実施。	富士見市教育委員会 生涯学習課	教育学部こども教育学科
2	継続	【子どもスポーツ大学☆ふじみ】 地域の企業や市民活動団体等との連携のもと、さまざまなスポーツで活躍する選手等を講師として招き、講義や競技体験等を行う。教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、富士見市内の施設にて人数制限を設けるなど感染拡大防止対策を徹底して実施。	富士見市教育委員会 生涯学習課	教育学部こども教育学科
3	継続	【子ども文化芸術大学☆ふじみ】 子どもたちに優れた文化芸術と触れ合う機会を提供し、豊かな感性や創造性、表現力を育むことを目的に、様々な文化芸術分野の専門家を招き、ワークショップを実施。教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、富士見市内の施設にて人数制限を設けるなど感染拡大防止対策を徹底して実施。	富士見市教育委員会 生涯学習課	教育学部こども教育学科
4	継続	【子ども大学みよし】 年間5回の講義（講演・体験事業）を行い、教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	三芳町教育委員会 生涯学習課・中央公民館	教育学部こども教育学科
5	継続	【みよし祭り】 毎年9月に開催される4万人規模の夏祭り。淑徳大学経営学部の学生が「ボランティア研修」の授業の一つのプログラムとして、毎年20名以上が準備段階から運営に参画している。2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、みよし祭りは中止となり、代替となるイベントへのボランティア、三芳町との連携によるマップ制作（淑徳祭で公開）を行った。	三芳町自治安心課	経営学部観光経営学科
6	継続	【鶴瀬よさこい祭り】 毎年10月に行われている2万人規模の秋の祭事イベント。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。	鶴瀬西口商店街連 合会・鶴瀬よさこ い祭り実行委員会 事務局	経営学部観光経営学科

	新規 継続	取組内容	担当課	担当／連絡先
7	継続	【みずほ台祭り】 毎年8月末に行われる4万人規模の祭事に、経営学部「企業経営研究」の授業の一環として企画・運営に参画しているが、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。	西みずほ台商店会・みずほ台祭り実行委員会	経営学部経営学科
8	継続	【所沢市生涯学習推進センター講座】 年2回、官学連携共催セミナー「世界の旅」講座を観光経営学科の教員が行っている。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。	所沢生涯学習推進センター	経営学部観光経営学科 広報・地域連携委員会
9	継続	【経済センサス基礎調査】 5年に一度の国の経済センサスの基礎調査、富士見市にある全事業所の所在・事業実施活動を事業所の外から確認する調査依頼が淑徳大学にあり、学生調査員を派遣。(単年度事業)	富士見市総務部総務課	経営学部観光経営学科 広報・地域連携委員会
10	継続	【第48回富士見市子どもフェスティバル】 子どもたちが、異なる年齢の子どもたちや地域の大人たちと、遊びなどの体験を通して交流を深める場とするとともに、「ふるさと富士見」の意識を高めることをねらいとして開催。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。 【ピースフェスティバル2021】 富士見市非核平和都市宣言の理念に基づき、平和について考える機会として開催する。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。	富士見市鶴瀬公民館	教育学部こども教育学科
11	継続	【子育て支援プログラム】 子育て支援センター主催の乳幼児向け各種事業への協力。乳幼児向けの事業を通じて、学生たちはどんなものに乳幼児が興味を示し喜ぶのかを学び、また現場での実技体験をすることで達成感や自信にもつながる。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況に合わせて実施方法を工夫し、感染防止対策をとりながら実施。	富士見市保育課子育て支援センター	教員・保育士養成支援センター
12	継続	【三芳町オランダナショナル柔道チームホストタウン事業】 柔道女子オランダチームと淑徳大学女子柔道部の合同合宿・公開練習・広報等の企画運営。2021年度は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会直前の7/18～7/22に、埼玉キャンパス武道場にてバブル方式による感染症対策を徹底しての事前トレーニングキャンプが行われた。	三芳町オリンピックアード推進課	埼玉キャンパス総務部
13	継続	【横瀬町・道の駅果樹公園あしがくぼ連携事業】 経営学部岩村2年・3年ゼミ生が、現地で農家聞き取り調査、登山道踏破調査・登山道落ち葉掃きを行いながら、歩行散策路の改善を横瀬町に提案する。2021年度は観光経営学科岩村ゼミの学生が落ち葉掃きを行った。	横瀬町・道の駅果樹公園あしがくぼ	経営学部観光経営学科
14	継続	【川越市特別支援教育学生派遣】 川越市特別支援教育学生支援員の依頼を受け、川越市内の各小中学校で障害のある児童生徒に対する支援を行っている。	川越市教育委員会	教員・保育士養成支援センター
15	継続	【学生による志賀高原観光振興プロジェクト】 志賀高原観光協会と連携して、志賀高原のスキー場ゲレンデに併設されたレストランを利用した学生によるカフェの運営を実施。2021年度は7/31～8/6志賀高原オリンピックホテルにてPBLプログラムを実施。	志賀高原観光協会	経営学部観光経営学科
16	新規	【三芳おなか子ども食堂】 地域のコミュニティ創造の場および居場所づくり事業として、対象者を限定せず、近所の子どもや高齢者などの居場所や、育児中の親子の憩いの場を三芳町内の民家で開催。教育学部学生によるパネルシアター公演やあそびのボランティア活動を行っている。	特定非営利活動法人れでいばーど三芳おなか子ども食堂	教員・保育士養成支援センター

## 2022年度 淑徳大学（埼玉キャンパス）と自治体との連携事業の整理

	新規 継続	取組内容	担当課	淑徳大学の コメント (継続性・実 施可否・担 当部署等)	担当/ 連絡先
1	継続	【子ども大学☆ふじみ】 地域や市民活動団体等との連携のもと、その教育資源を活用しながら子どもの知的好奇心を育み、自ら学び考える子どもの育成に寄与することを目的として、年7回程度の講義を実施。教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。	富士見市教育委員会・生涯学習課	可	教育学部 こども教育学科
2	継続	【子どもスポーツ大学☆ふじみ】 地域の企業や市民活動団体等との連携のもと、さまざまなスポーツで活躍する選手等を講師として招き、講義や競技体験等を行う。教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。	富士見市教育委員会・生涯学習課	可	教育学部 こども教育学科
3	継続	【子ども文化芸術大学☆ふじみ】 子どもたちに優れた文化芸術と触れ合う機会を提供し、豊かな感性や創造性、表現力を育むことを目的に、様々な文化芸術分野の専門家を招き、ワークショップを実施。教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。	富士見市教育委員会・生涯学習課	可	教育学部 こども教育学科
4	継続	【三芳町子ども大学みよし】 三芳町では年間5回の講義（講演・体験事業）を行い、教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止されたが、2022年度は実施。	三芳町教育委員会 生涯学習課・中央公民館	可	教育学部 こども教育学科
5	継続	【みずほ台祭り】 毎年8月末に行われる4万人規模の祭事に、経営学部「企業経営研究」の授業の一環として企画・運営に参画しているが、2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。	西みずほ台商店会・みずほ台祭り実行委員会	可	経営学部
6	継続	【みよしまつり】 毎年9月に開催される4万人規模の夏祭り。淑徳大学経営学部の学生が「ボランティア研修」の授業の一つのプログラムとして、毎年20名以上が準備段階から運営に参画している。2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、みよしまつりは中止。	三芳町自治安心課	可	経営学部
7	継続	【横瀬町・道の駅果樹公園あしがくぼ連携事業】 経営学部岩村2年・3年ゼミ生が、現地で農家聞き取り調査、登山道踏破調査・登山道落ち葉掃きを行いながら、歩行散策路の改善を横瀬町に提案する。2022年度は、23名が参加。	横瀬町・道の駅果樹公園あしがくぼ	可	経営学部 観光経営学科
8	継続	【川越市特別支援教育学生派遣】 川越市特別支援教育学生支援員の依頼を受け、川越市内の各小中学校で障害のある児童生徒に対する支援を行っている	川越市教育委員会	可	教員・保 育士養成 支援セン ター
9	継続	【所沢市生涯学習推進センター講座】 年2回、官学連携共催セミナー「世界の旅」講座を観光経営学科の教員が行っている。コロナ禍後3年ぶりに復活。	所沢市生涯学習推進センター	可	経営学部 観光経営 学科広報・ 地域連携 委員会
10	継続	【三芳おなかま子ども食堂】 地域のコミュニティ創造の場および居場所づくり事業として、対象者を限定せず、近所の子どもや高齢者などの居場所や、育児中の親子の憩いの場を三芳町内の民家で開催。教育学部学生によるパネルシアター公演やあそびのボランティア活動を行っている。	特定非営利活動法人 れいでいばーど三芳おなかま子ども食堂	可	教員・保 育士養成 支援セン ター
11	新規	【片品村・淑徳大学連携協定締結】 2023年2月6日 群馬県片品村との「観光むらづくりに関する協定」（大学連携協定）締結式を実施。	片品村	可	経営学部 (朝倉・ 千葉)
12	新規	【只見町・淑徳大学連携協定締結】 2023年2月20日 福島県只見町との「観光まちづくりに関する協定」（大学連携協定）を締結した。	只見町	可	経営学部 (黒羽・ 千葉)
13	新規	【釜石市・淑徳大学連携協定締結式】 2023年3月4日 岩手県釜石市との「観光まちづくりに関する協定」（大学連携協定）を締結した。	釜石市	可	経営学部 (千葉)

	新規・継続	取組内容	担当課	淑徳大学のコメント (継続性・実施可否・担当部署等)	担当/連絡先
14	新規	【FUJIMI ☆クラフトビアフェスタ】 富士見市市制50周年の記念イベント。子どもたちの「学びの場」として、教育学部学生によるパネルシアター上演、ワークショップを予定。教育学部フレンドシップ事業の一環として参加。	富士見市産業経済課	否 (単年度企画)	教育学部 こども教育学科
15	継続	【学生による志賀高原観光振興プロジェクト】 2021年度までは志賀高原観光協会と連携して、志賀高原のスキー場ゲレンデに併設されたレストランを利用した学生によるカフェの運営を実施が、2022年度からは、一般社団法人観光教育・インターンシップセンターを通して、学生自身がホテル経営をするプログラムに変更された。	志賀高原観光協会 →一般財団法人観光教育・インターンシップセンター	可	経営学部 観光経営学科

## 2021年度 淑徳大学（東京キャンパス）と自治体との連携事業の整理

2022年11月30日現在

	新規・継続	取組内容	担当課	担当/連絡先
1	継続	【歴史学科：正課科目「歴史調査実習Ⅰ」における地域連携】 ※授業での連携 板橋区立郷土資料館・板橋区公文書館の協力を得て、調査や実習を実施。また郷土資料館の学芸員で卒業生による講義を実施。	板橋区（板橋区公文書館・区立郷土資料館）	人文学部 歴史学科 遠藤ゆ・田中洋
2	継続	【歴史学科：正課科目「日本地域史」における地域連携】※授業での連携 板橋区板橋本町地域（板橋宿跡）を対象として、地域の歴史を研究する。板橋区公文書館・板橋区立郷土資料館、仲宿商店街振興組合と連携し、調査研究を行った。その成果は学生が報告書にまとめるとともに、教員が実践報告書（『淑徳大学人文学部研究論集』へ投稿）を作成した。	板橋区（公文書館・区立郷土資料館）	人文学部 歴史学科 遠藤
3	継続	【認知症サポーター養成講座】※教職課程と連携 板橋区内の認知症の高齢者をサポートする活動を支援する講座を開催。 2021年度は12月10日にハイブリッドで開催した。講師には、社会福祉法人ハッピーネット 若葉ゆめの園デイサービスセンターのセンター長をお迎えした。 人文学部は教職課程履修する学生が「介護等体験」の事前学習を目的として参加。短期大学部介護福祉コース1年生が授業の一環で参加。当日参加できない学生は、大学HPに掲載された動画視聴した。	板橋区 おとしより保健福祉センター	ボランティアセンター 東京 人文学部 歴史学科 鈴木
4	継続	【歴史学科：教職課程を履修する学生による学習ボランティア】 ※教職課程と連携 教職課程を履修する学生が、板橋区教育委員会と連携して、学習支援ボランティアに登録し、派遣を要請する小中学校で学習支援を行う。 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で中止。	板橋区教育委員会 板橋区教育センター教育支援係	ボランティアセンター 東京 人文学部 歴史学科 遠藤・田中・鈴木・吉森
5	継続	【歴史学科：八潮こども夢大学での体験授業の実施】※教職課程と連携 八潮市教育委員会主催で2014年度から開催されている「八潮こども夢大学」に2015年度より参加。八潮市の有志児童が大学を訪れ、学生や教員による体験学習や講義を受ける。 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で中止。	埼玉県 八潮市 学校教育部 指導課 指導係	東京キャンパス 事務局長 上田 人文学部 歴史学科 森田
6	継続	【表現学科：板橋区文化・国際交流団体が主催するイベントでの学生スタッフの参加】※ゼミでの連携 白寄ゼミで2017年度より下記のイベントにおいて、学生がスタッフとして参加。2021年度は感染対策をした上で、以下に参加した。 ・ふれあいステージ 影アナウンス ・フレッシュコンサート 影アナウンス ・外国人スピーチ大会 司会・講師・運営→リモートにて配信。	公益財団法人 板橋区文化・国際交流財団	人文学部 表現学科 白寄

	新規 継続	取組内容	担当課	担当/連絡先
7	継続	【表現学科:志村警察署と連携しての特殊詐欺防止の企画立案】 ※ゼミでの連携 白寄ゼミで2017年度より参加。2021年度は以下を実施。 ・特殊詐欺防止キャンペーンに向けてのドラマ仕立ての動画を制作、警視庁のYouTubeチャンネルにて公開された。	警視庁 志村警察署 防犯係	人文学部 表現学科 白寄
8	継続	【表現学科:「絵本のまち 板橋」プロジェクト 板橋区立美術館および板橋区立図書館とのPBL】※ゼミでの連携 板橋区が2021年度より区のプロランディングで掲げる「絵本のまち 板橋」関連のイベントや活動を学生が取材し、note (Web配信サイト) で配信。 (2021年度) <a href="https://note.com/sh_ehon_project/">https://note.com/sh_ehon_project/</a> 取材内容を14本の記事で配信。12月22日に美術館館長、図書館担当者に来校いただき成果報告会を開催。	板橋区立中央図書館 板橋区立美術館 絵本さんぽに参加の地域店舗(書店・カフェ等)	人文学部 表現学科 杉原
9	継続 隔年	【板橋区公開講座】 板橋区と共催により隔年で開催される公開講座で、東京キャンパスでは人文学部開設の2014年度に初めて開催。参加者は区内在住・在勤・在学で全6回すべてに受講できる方が対象で事前応募制。2017年度は歴史学科、2019年度は表現学科の専任教員が担当。 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で中止。	板橋区教育委員会 事務局 生涯学習課生涯学習推進係 近藤様	東京キャンパス 学事 部 部長 江島
10	継続	【八潮市及びその周辺地域の歴史研究の成果の情報発信】 歴史調査実習Ⅱの授業の一環として八潮市をフィールドとしたグループ学習を行い、その成果を八潮市立資料館でポスター展示の形で実施できた。	八潮市資料館	人文学部 歴史学科 森田
11	継続	【八潮市立資料館教育普及活動への参加】 博物館教育論・博物館実習の授業の一環として、八潮市立資料館における教育普及活動に参加した。	八潮市資料館	人文学部 歴史学科 森田

## 2022年度 淑徳大学（東京キャンパス）と自治体との連携事業の整理

2023年3月31日現在

	新規 継続	取組内容	担当課	担当/連絡先
1	継続	【歴史学科:正課科目「歴史調査実習Ⅰ」における地域連携】 ※授業での連携 板橋区立郷土資料館・板橋区公文書館の協力を得て、調査や実習を実施。また郷土資料館の学芸員による講義を実施。	板橋区(板橋区公文書館・区立郷土資料館)	人文学部 歴史学科 遠藤ゆ・田中洋
2	継続	【歴史学科:正課科目「日本地域史」における地域連携】※授業での連携 板橋区板橋本町地域(板橋宿跡)を対象として、地域の歴史を研究する。板橋区公文書館、仲宿商店街振興組合と連携し、調査研究を行った。その成果は学生が報告書にまとめるとともに、教員が実践報告書(『淑徳大学人文学部研究論集』へ投稿)を作成した。	板橋区(公文書館)	人文学部 歴史学科 遠藤ゆ
3	継続	【認知症サポーター養成講座】※教職課程と連携 板橋区内の認知症の高齢者をサポートする活動を支援する講座を開催。 2022年度は12月2日に対面で開催した。講師には、社会福祉法人ハッピーネット 若葉ゆめの園デイサービスセンターのセンター長をお迎えした。 人文学部は教職課程履修する学生が「介護等体験」の事前学習を目的として参加。短期大学部介護福祉コースでは学生の自主的な参加があった。	板橋区 おとしより保健福祉センター	ボランティアセンター 東京 人文学部 歴史学科 鈴木
4	継続	【歴史学科:教職課程を履修する学生による学習ボランティア】 ※教職課程と連携 教職課程を履修する学生が、板橋区教育委員会と連携して、学習支援ボランティアに登録し、派遣を要請する小中学校で学習支援を行う。 2022年度は、7月21日に板橋区教育委員会から職員(3名)が来校して、学習支援ボランティアについて説明。 説明会には14名の参加があり、その中で以下の9名が申し込みをした。 (人文歴史:2名(1年1名、2年1名) 人文表現:2名(2年) 短大健福:3名(2年1名、1年2名) 短大こども:2名(1年))	板橋区教育委員会 板橋区教育センター教育支援係	ボランティアセンター 東京 人文学部 歴史学科 遠藤孝・田中・鈴木・吉森

	新規 継続	取組内容	担当課	担当／連絡先
5	継続	【歴史学科：八潮こども夢大学での体験授業の実施】※教職課程と連携 八潮市教育委員会主催で2014年度から開催されている「八潮こども夢大学」に2015年度より参加。八潮市の有志児童が大学を訪れ、学生や教員による体験学習や講義を受ける。2022年度は「演劇ワークショップ」を行った。	埼玉県 八潮市 学校教育部 指導課 指導係	人文学部 表現学科 中野 東京キャンパス 総務部
6	継続	【表現学科：板橋区文化・国際交流財団が主催するイベントでの学生スタッフの参加】※ゼミでの連携 白寄ゼミで2017年度より下記のイベントにおいて、学生がスタッフとして参加している。2022年度は感染対策をした上で、以下に参加した。 ・ふれあいステージ（※板橋区文化会館改修工事のため2022年度は中止） ・フレッシュコンサート 影アナウンス ・外国人スピーチ大会 司会・講評・運営	公益財団法人 板橋区文化・国際交流財団	人文学部 表現学科 白寄
7	継続	【表現学科：志村警察署と連携しての特殊詐欺防止の企画立案】※ゼミでの連携 白寄ゼミで2017年度より参加。2021年度は以下を実施。 ・特殊詐欺防止キャンペーンに向けてのポスターを制作、警視庁にて活用されている。	警視庁 志村警察署 防犯係	人文学部 表現学科 白寄
8	継続	【表現学科：「絵本のまち 板橋」プロジェクト 板橋区立美術館および板橋区立図書館とのPBL】※ゼミでの連携 板橋区が2021年度より区のブランディングで掲げる「絵本のまち 板橋」関連のイベントや活動を学生が取材し、note（Web配信サイト）で配信。 〈2022年度〉 <a href="https://note.com/shukutoku_unv_ip">https://note.com/shukutoku_unv_ip</a> 「絵本のまち 板橋」関連記事を11月段階で12本配信。 2022年度は大学祭にて活動報告や絵本紹介とともに、「絵本の読み聞かせ」イベントを開催し20名以上の親子の参加があった。	板橋区立中央図書館 板橋区立美術館 絵本さんぽに参加の地域店舗（書店・カフェ等）	人文学部 表現学科 杉原
9	継続 隔年	【板橋区公開講座】 板橋区と共催により隔年で開催される公開講座で、東京キャンパスでは人文学部開設の2014年度に初めて開催。参加者は区内在住・在勤・在学で全6回すべてに受講できる方が対象で事前応募制。2017年度は歴史学科、2019年度は表現学科の専任教員が担当。 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で中止。	板橋区教育委員会 事務局 生涯学習課生涯学習推進係 近藤様	東京キャンパス 学事部
10	継続	【八潮市及びその周辺地域の歴史研究の成果の情報発信】 歴史調査実習Ⅱの授業の一環として八潮市をフィールドとしたグループ学習を行い、その成果を八潮市立資料館でポスター展示の形で実施した。	八潮市資料館	人文学部 歴史学科 森田
11	継続	【八潮市立資料館教育普及活動への参加】 博物館教育論・博物館実習の授業の一環として、2023年度八潮市立資料館における教育普及活動プログラムの提案をグループ単位で行った。これらの提案のうち、最優秀に提案内容については、2023年の八潮市立資料館における教育普及プログラムとして採用される。	八潮市資料館	人文学部 歴史学科 森田
12	新規	【表現学科：SDGs未来都市プロジェクト】※ゼミでの連携 内閣府が推進している「SDGs未来都市」に選出された板橋区について、区役所や区の施設を学生が取材し、情報発信する。 板橋区役所を取材したほか、板橋区立教育科学館の清水館長に7月のゼミに参加いただいた後、施設を取材。来年度に向けてSDGsに関連した企画で地域の子どもたちや住民と連携するアイデアについてディスカッションを進める。 (Shukutoku Picks)「SDGs未来都市」に選ばれた板橋区への取材 <a href="https://www.shukutoku.ac.jp/news/nid00002216.html">https://www.shukutoku.ac.jp/news/nid00002216.html</a> (note記事)Vol.13 SDGsへの取組① 板橋区立教育科学館 <a href="https://note.com/shukutoku_unv_ip/n/nfa5cd45d833f">https://note.com/shukutoku_unv_ip/n/nfa5cd45d833f</a> (日本文教出版ブログ記事：板橋区立教育科学館 清水館長の執筆記事) <a href="https://www.zukonomikata-nichibun.net/theworkofwonder015/?fbclid=IwAR29hQia9_Ho49NRu6Eae9Zx8utDfSil-Rd8wdqLcDgGAFQ8U6msTiYeiw0">https://www.zukonomikata-nichibun.net/theworkofwonder015/?fbclid=IwAR29hQia9_Ho49NRu6Eae9Zx8utDfSil-Rd8wdqLcDgGAFQ8U6msTiYeiw0</a>	板橋区役所 板橋区立教育科学館 ほか	人文学部 表現学科 杉原

令和5年3月6日

## 令和4年度千葉県酒々井町清光寺古文書調査報告書

淑徳大学人文学部歴史学科

准教授 田中 洋平

### 1. 古文書調査の前提

- ① 令和4年度の千葉県酒々井町と淑徳大学の地域間連携協定に基づき、同町に所在する浄土宗孤峰山清光寺にかかる古文書調査を実施した
- ② 調査実施日は下記のとおり  
第1回 令和5年2月27日  
第2回 令和5年3月6日

計2日間

### 2. 調査の概要

- ① 本年度の調査では、清光寺所蔵の襖下張文書の調査を実施した。今回は特に断簡状態となっている襖下張文書をつなぎ合わせ、古文書史料として使用に耐えうる状態にまで修復する作業に従事した
- ② 本年度の調査における具体的な成果は下記のとおり
  - A) 清光寺住持の交代時に作成された什物帳のうち、第16世最誉の時期（享保年間）の史料に関し、その修復を終えた
  - B) 正徳年間の清光寺寺内の様子がわかる「清光寺中宗門改並人数書上」を新たに発見した
  - C) これらによって、これまで全くわからなかった江戸時代中期における清光寺の様子がある程度明らかになるものと考え

### 3. 今後の計画

- ① ほぼすべての史料が断簡となっている史料の整理及び目録化にあたっては、これを一定程度つなぎ合わせる作業が今後も必要である
- ② 次回の調査は令和5年の4月以降に新型コロナウイルス感染症状況を勘案しながら実施する

以上

## 2021年度 淑徳大学地域連携センター員名簿

センター長	矢尾板 俊 平 (コミュニティ政策学部)
センター員	西 塚 洋 (大学事務局長)
	竹 内 優 (附属機関事務室)
	成 田 真 美 (附属機関事務室)

## 2021年度 淑徳大学地域連携センター運営委員会名簿

運営委員長	矢尾板 俊 平 (コミュニティ政策学部)
運 営 委 員	黒 川 雅 子 (総合福祉学部)
	岩 村 沢 也 (経営学部)
	杉 原 麻 美 (人文学部)
	西 塚 洋 (大学事務局長)
	竹 内 優 (附属機関事務室)
	成 田 真 美 (附属機関事務室)
	松 崎 滋 (千葉事務局 学事部)
	櫻 井 一 雄 (看護栄養学部 事務部)
	重 岡 なつみ (埼玉事務局 総務部)
	生 駒 貴 彦 (東京事務局 キャリア支援室)

## 2022年度 淑徳大学地域連携センター員名簿

センター長 矢尾板 俊 平 (コミュニティ政策学部)  
 センター員 竹 内 優 (附属機関事務室)  
 成 田 真 美 (附属機関事務室)

## 2022年度 淑徳大学地域連携センター運営委員会名簿

運営委員長 矢尾板 俊 平 (コミュニティ政策学部)  
 運営委員 黒 川 雅 子 (総合福祉学部)  
 岩 村 沢 也 (経営学部)  
 松 家 まきこ (教育学部)  
 増 淵 まり子 (教育学部)  
 鈴 木 織 恵 (人文学部)  
 竹 内 優 (附属機関事務室)  
 成 田 真 美 (附属機関事務室)  
 松 崎 滋 (千葉事務局 学事部)  
 櫻 井 一 雄 (看護栄養学部 事務部)  
 重 岡 なつみ (埼玉事務局 総務部)  
 稲 垣 沙 織 (東京事務局 総務部)

## 淑徳大学地域連携センター規程

### (設 置)

第1条 淑徳大学学則第7条第2項に基づき、淑徳大学地域連携センター（以下、「センター」という。）を設置する。

### (目 的)

第2条 センターは、淑徳大学（以下、「本学」という。）の地域貢献推進に関する事項を取り扱い、地域とのさまざまな産学連携事業等を通じて、地域社会の活性化・発展に寄与することを目的とする。

### (業 務)

第3条 センターは、前条に規定する目的を達成するために、以下の業務を行う。

- 一 地方公共団体、地域産業界、地域団体等との連携事業の企画立案あるいは実施に関すること
- 二 生涯学習事業の企画立案及び実施に関すること
- 三 教育プログラム（社会人の学び直しを含む。）の企画立案及び実施に関すること
- 四 その他の必要な事項

### (連携する学内組織)

第4条 センターは、前条に規定する業務を遂行するに当たっては、本学内の関係する機関・部局・委員会等と連絡・調整を行い、統括的な役割をもって連携を図るものとする。

### (構 成)

第5条 センターは、センター長及びセンター員で構成する。

### (構成員の任務)

第6条 センター長は、センターを代表し、その業務を統括する。

- 2 センター員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

### (任 命)

第7条 センター長の任命は、学長が指名し、理事長が任命する。

- 2 センター員の任命は、学長が指名し、理事長が任命する。

### (任 期)

第8条 センター長及びセンター員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

### (運営委員会)

第9条 センターの運営に関する重要事項を審議するため、地域連携センター運営委員会（以下、「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(事 務)

第10条 センターに関する事務は、事務局が行う。

(規程の改正)

第11条 この規程の改正は、大学協議会の議を経て、学長が決定するものとする。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

## 淑徳大学地域連携センター運営委員会規程

### (目的)

第1条 淑徳大学地域連携センター規程第9条第2項に基づき、地域連携センター運営委員会（以下、「運営委員会」という。）について必要な事項を定める。

### (審議事項)

第2条 運営委員会は、地域連携センター（以下、「センター」という。）を適正かつ円滑に運営するため、次の事項について審議する。

- 一 センターの運営に関する事項
- 二 センターの業務に関する事項
- 三 センターの活動に関する点検・評価
- 四 その他の必要な事項

### (構成)

第3条 運営委員会は、センター長、大学事務局長及び学長が指名した教員並びに職員（以下、「委員」という。）をもって構成する。

2 運営委員会は、必要な場合、委員以外のものを招いて、意見を聞くことができる。

### (委員長及び委員の任務)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、次の任務を行う。

- 一 運営委員会を招集し、その議長となり、議事を統括する。
- 二 審議事項について、関係部局への連絡及び調整を行う。

3 委員は、運営委員会に出席して意見を述べ、決定した必要な任務を行う。

### (委員会の開催と招集)

第5条 運営委員会は定例で開催するものとし、委員長がこれを招集する。ただし、委員長が必要と認めた場合、臨時に開催することができる。

2 前項の規定にかかわらず、委員の過半数以上が開催を求めた場合、委員長は速やかに委員会を招集しなければならない。

### 附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

## 淑徳大学地域連携センター 共同研究及び実践的な取り組みの実施に関する覚書

### (目的)

第1条 この覚書は、淑徳大学地域連携センター（以下「センター」という。）が取り組む、産官学等との連携による共同研究、地域の課題解決の実践プロジェクト等、地域連携に関わる取り組みを推進するために必要な体制について定める。

### (公民連携ディレクター)

第2条 センターが取り組む、産官学等との連携による地域の課題解決の実践、共同研究等を円滑に遂行するために、センター長を補佐する公民連携ディレクターを置くことができる。

2 公民連携ディレクターは、学内の専任教職員、または特別招聘教授、客員教授、下記に定める兼任研究員のうち特別客員研究員又は客員研究員の中からセンター長が推薦し、学長が認める者を以て充てる。

### (兼任研究員)

第3条 センターが取り組む、産官学等との連携による共同研究、地域の課題解決の実践プロジェクト等を円滑に遂行するために、学外の研究者や実務家等から、兼任の研究員として協力を得ることができる。

2 兼任研究員は、センター長から委託された特定の調査研究またはセンターの目的を達成するために必要な業務・活動を行う者を特別客員研究員、客員研究員、訪問研究員とする。

3 兼任研究員のうち特別客員研究員は、他大学の名誉教授、教授の地位にある者又はそれに相当する実践・実務経験を持つ者とし、センター長の推薦を得て、学長が委嘱する。

4 兼任研究員のうち客員研究員は、センターが取り組む産官学等との連携による共同研究を実施するために派遣される者とし、センター長の推薦を得て、学長が委嘱する。

5 兼任研究員のうち訪問研究員は、センターに訪問して研究活動や実践活動に従事する者及び所属研究機関を持たない博士後期課程修了者とし、センター長の推薦を得て、学長が委嘱する。

### (リサーチアシスタント)

第4条 センターが取り組む、産官学等との連携による地域の課題解決の実践、共同研究等を円滑に遂行するために、研究業務を補佐するためにリサーチアシスタントを置くことができる。

2 リサーチアシスタントは、国内の大学院の博士前期課程及び博士後期課程在籍者、あるいはそれに相当する実践・実務経験を持つ者とし、センター長の推薦を得て、学長が委嘱する。

### (プロジェクトアシスタント)

第5条 センターが取り組む、産官学等との連携による地域の課題解決の実践、共同研究等の遂行にあたって生ずる業務について、プロジェクト責任者を支援するプロジェクトアシスタントを置くことができる。

2 プロジェクトアシスタントは、実践活動や共同研究の遂行にあたって、センター長が必要だと認める者を推薦し、学長が委嘱する。

### (覚書の改正)

第6条 この覚書の改正は、センター運営委員会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この覚書は、平成28年5月1日から施行する。

この覚書は、平成29年5月1日から施行する。

この覚書は、平成30年6月1日から施行する。

この覚書は、令和2年4月1日から施行する。

---

# 淑徳大学地域連携センター年報

第6号

---

発行 令和6年3月  
編集責任者 矢尾板俊平  
発行者 淑徳大学地域連携センター  
〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町200  
電話043-265-7911  
印刷 (株)正文社  
〒260-0001 千葉市中央区都町1-10-6  
電話043-233-2235

---

ISSN 2434-0278



